

42
3
45

東京圖書館

新門三

七部一

架號

類

東京穴探

初二編

特46
194

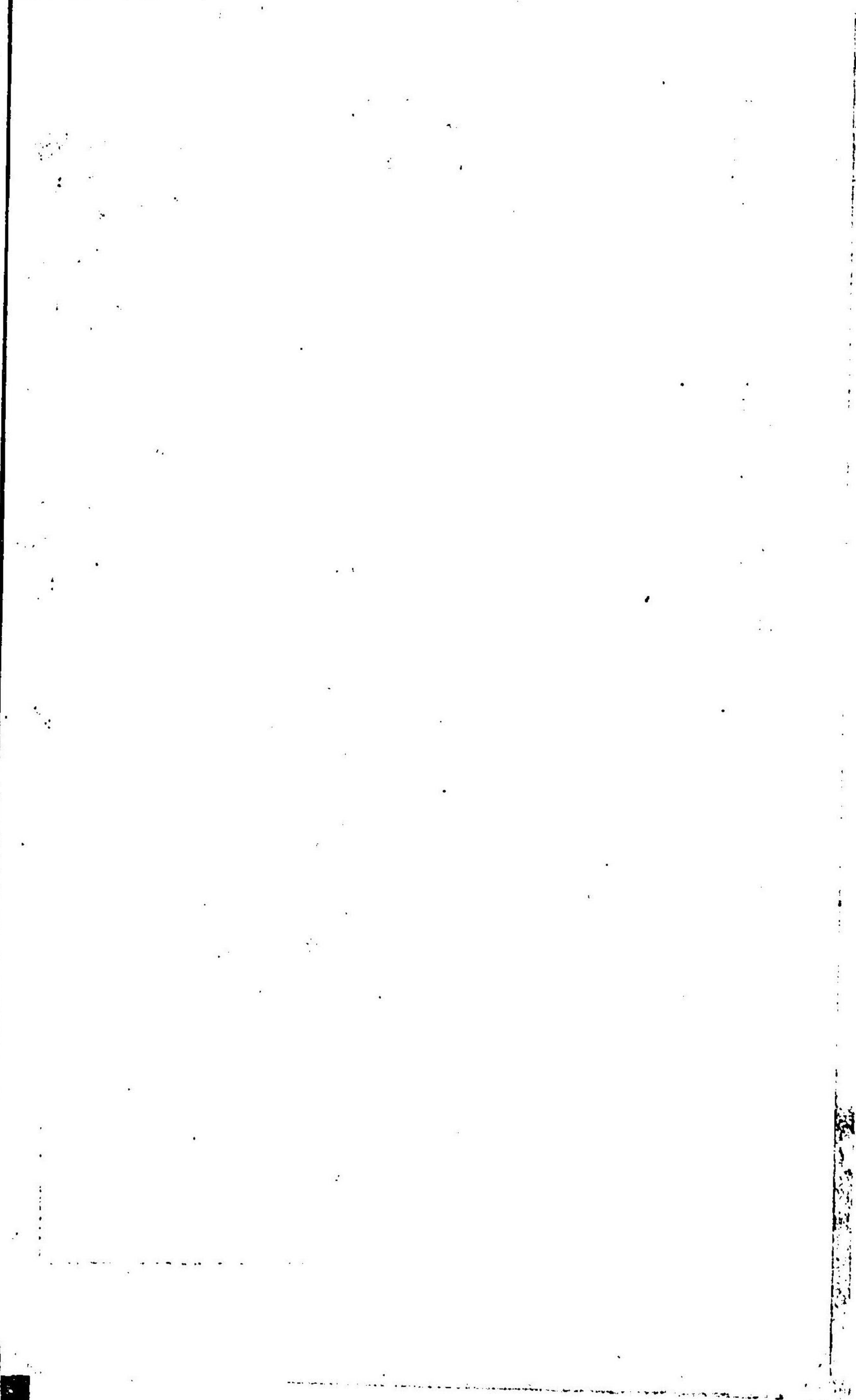
松村操編著

東京穴探

初篇

明治十四年
一月發行

思誠堂藏版



東京穴探目次

○初編

第一章

東京雜記

(一)東京ノ繁榮 (二)流行物

(三)道路ノ沙塵 (四)火事

(五)人力車ノ乘客 (六)祭禮

(七)喧嘩

第二章

新聞紙

第三章

貧困者

紙屑買

第五章

初荷

婦優ノ不品行

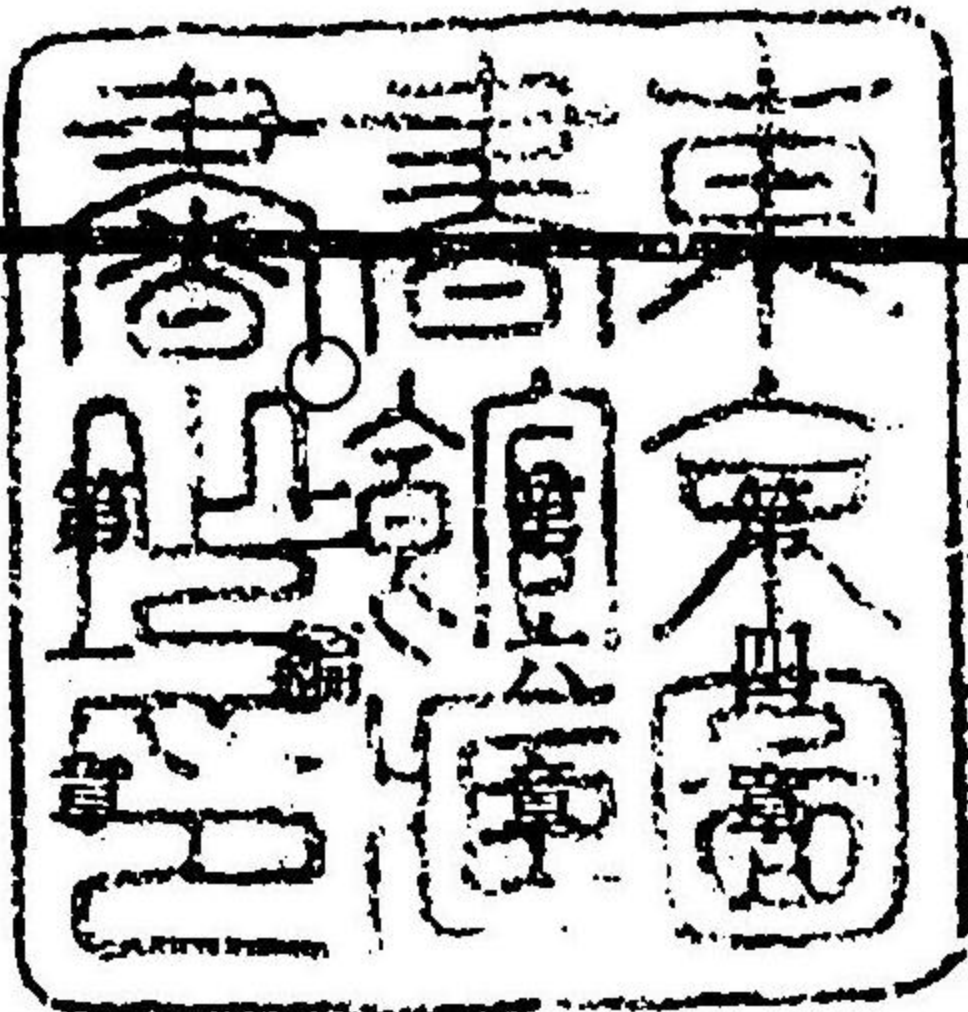
第七章

演說會

懇親會

第二章

婚姻



第三章	ケイツ買	第四章	女學生
第五章	開業式	第六章	自稱紳士
第七章	金貸	第八章	身代限
第九章	寄席	第十章	掏摸
○三編			
第一章	著述者 山板	第二章	賈淫女
(一)娼妓	(二)私窩子	第三章	乘合馬車
第四章	ポソ引	第五章	落魄者
第六章	雜誌	第七章	落魄家 講釋師
第八章	裏店ノ狀況	第九章	待合茶屋

第十章 代言人

○四編

第一章	權妻	第二章	詐偽者
第三章	人力車夫	第四章	露肆
第五章	貸坐敷	第六章	外妾
第七章	少年男女	第八章	船宿
第九章	雇人請宿	第十章	強盜
○五編			
第一章	奢侈ノ風俗	第二章	温泉場
第三章	食倒レ者	第四章	藝妓ノ跋扈

第五章 宴飮

第六章 賣卜者

第七章 洋物雜貨店

第八章 古衣舖

第九章 論者

合計 五十六章

第一章 東京雜記
第二章 東京雜記
第三章 東京雜記
第四章 東京雜記
第五章 宴飮
第六章 賣卜者
第七章 洋物雜貨店
第八章 古衣舖
第九章 論者
合計 五十六章

東京穴探初編

松村操 編著

第一章 東京雜記

方今世界ノ大都ヲ計フルニハ曰ク英ノ龍動曰ク佛ノ波黎
曰ク支那ノ北京曰ク米ノ紐約克而ヲ東京ヲ以テ此等ニ
腫クモソトス夫レ東京ハ武藏國ノ東南隅ニ在リテ南豐島
北豐島、荏原、東多摩、南足立、南葛飾ノ六郡ニ跨リ南ハ江戸灣
ニ臨メリ(昔時ハ武藏下總ノ二國ニ跨リタレハ後下總ヲ割
テ武藏ニ屬セリ)市街ヲ分畫シテ麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻

布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川ノ十五區ト
ス地勢ハ平遠ニシテ僅ニ二三ノ丘陵有リテ處々ニ起伏シ
隅田川ヲ除クソ外ハ大川ヲ見ズ古ノ所謂武藏野ノ地ナリ
武藏野ハ彼ノ古歌ニ艸ヨリ出テ艸ニ入ルト詠メル如ク月
草叢ヲ出テ草叢ニ没スルノ曠原ニシテ十郡ニ跨リタリト
稱セシモ一タビ府ヲ此ノ地ニ開キシヨリ草菜ハ化シテ街
衢トナリ荒土ハ變シテ邸宅トナリ遂ニ畫彩楹ヲ以テ覆
フニ至レリ道路縱橫交錯シテ所謂四通八達東南ノ地ハ悉
ク坦夷ニシテ高低ナク西北所謂山手ハ丘陵有ルモ亦太
險ナラズ橋梁ハ隅田川ニ架スルモノヲ六大橋ト稱ス曰ク

永代橋(長サ百四間廣六間)曰ク新大橋(長サ百八間廣三間三
尺)曰ク兩國橋(長サ九十間廣六間)曰ク底橋(長サ八十六間廣
三間三尺)曰ク吾妻橋(長サ八十四間廣三間三尺)曰ク千住大
橋(長サ六十六間廣三間)日本橋ハ府下ノ中央ニ在ルヲ以テ
道路里程ヲ定ムルノ元標トナス其小ナルモノニ至テハ蓋
シ數百ヲ以テ數フベシ大路ニハ瓦斯灯ヲ設ケテ輝々
トシテ暗夜モ猶ホ白日ノ如ク新橋ヨリ横濱ニ抵ルノ間ニ
鉄道ヲ開キテ瀛車ヲ通シ七里ノ行程一瞬間ニシテ往復ス
ベシ新橋ヨリ万代橋ニ至ルマデヲ稱シテ大通トイフ戸口
最モ稠密商賣最モ繁盛殊ニ京橋以南數街ノ間ハ家屋悉ク

煉瓦石ヲ以テ築造シ道路ヲ劃シテ三條トナシ兩側ニ花卉
 緑樹ヲ栽エ府下第一美麗ノ市街ニシテ一觀以テ眼ヲ驚ス
 ニ足ルベシ府下ノ飲水ハ昔時大抵汚濁ヲ滯ヒタルヲ以テ
 承應年中始メテ水道ヲ設ケ玉川神田兩上水ヲ引ケリ伏管
 ナ地下ニ縱横散布シテ戸々ノ飲料ニ供ス其構造ノ壯大ナ
 ル亦ヲ驚クニ堪ヘヨリ人口ノ繁殖ニ至テハ蓋シ東洋中第
 二ニ居ルモノシテ通街車馬往來シ人物ノ雜沓スル所
 ニ至テハ絡繹トシテ織ルカ如ク肩肩ト相摩シ尻尻ト相接
 シテ殆ンド歩スベカクズ所謂椎ヲ連テ帷ヲナシ袂ヲ舉テ
 幕ヲナシ汗ヲ揮フヲ雨ヲナストハ其レ眞ニ東京ノ謂采今

此ノ繁盛ナル都府以人口ヲ算スレバ一百零五万餘コレニ
 寄留或モハ一時府下ニ止宿スルモノヲ合算スルハ無慮
 二百万ニ達スルコト也今夫レ繁盛此ノ如ク雜沓此ノ如クナ
 レハ隨テ府下ニ於テ生田ヌル所ノ奇事珍聞亦甚々多ク
 シテ畢竟東京ハ富ノ華屋巨商名士美術ニ富メルモノニア
 ラズ亦多奇事珍聞ノ淵藪問屋ト稱スベキナリ今吾輩ガ耳
 染ヒ入り眼睛ニ觸ルハ所ツモソコ計立テハ詳細ニ記載
 スル所ニハ十行二十五字ノ小冊少クテ亦數千卷ノ書キ散
 ラシタレバ亦中々得テ盡スベキニアラズ此等ノ大ナル
 者ハ逐次ニ記スルコトナシ今左ニ手短ナル小キモノヲ列

記スベシ
 流行物 時好ヲ逐ヒ流行ヲ競フハ蓋シ都人士ノ免ルベ
 カラザル通弊ナリトイヘド東京人ノ如ク新ヲ争ヒ奇ヲ喜
 ムノ甚シキモノハ有ラザルベシ畢竟是レ其定見ナキコト因
 セリ昨年流行シ帽子ハ本年忽チ陳腐ニ属シ昨日新奇ノ染
 色ハ今日俄ニ儉父ノ衣服ト嘲ケラル其一端ヲ舉ンコ五六
 年前ハ蘇合羽盛ニ一府下ニ流行シ男トナク女トナクコレ
 ヲ被サレモノナク到ル處黒色翻カトシテ街頭ニ翔ルヲ見
 テ尋テ蘇合羽ヲ嗜好一變シテ外套ト變セリ彼ノ洋風外
 套ノ不便利ナル裾短クシテ腰ヲ覆フニ足ラズ洋服ニハ兔

角モモ適スベクドモヨシク日本服ノ上戸引掛
 片ハ羽織ヨリ短キ三寸上衣ヨリ引足ヲザルヲ殆ソヤ三
 尺餘以テ風雨ヲ防然ニ足ラズ以テ寒氣ヲ護スルニ足ラズ
 然レモ流行トイヘバ統フタコソ引張リ外套ト羽織ト上
 衣ト三段ツキノ奇妙稀代ナル装ヒナシテ得意ノ色ヲ呈
 セリ三段ツキ久シカラズヤ稍ヤ黜ケラレ今度ハ化シテ
 肩懸トナレリ聞ク肩懸即チ「シヨ」ナル者ハ西洋婦女ノ
 服ニシテ男子ノ被ルモノコトヲバト奇ヲ好ムノ甚キ男女
 衣ヲ同フスルコト至ル咄々怪事ト謂ハザルベカラザルナリ
 或人嘗テ曰ク若シ二三ノ好事者有リテ首ヲ袴口突込ニ羽

織ニ足ヲ通シテ是レ乃チ流行ナリト曰ハト都人ノ輕躁ナ
 ル或ハコレヲ學ぶ者有リテ遂ニ滿都ヲシテ傲ハシムルニ
 至ルニシテ其言過激ニ似テリト亦理ナキニテ其
 近來ハラハト唱ル部諸盛ニハ滿都ニ行ハレ適ニ以テ
 其ノ嗜好ヲ翻々トシテ浮薄ナルヲ証スルニ足ルニ非
 則無レ由謝也トハ其沙塵等ヲ謂カ
 道路ノ沙塵ト東京沙地ハ四方開豁ニシテ山嶽沙塵障
 ル所無キ以テ颶風常ニ多ク天氣清明ノ日ニ至テハ必ラ
 沙塵埃捲キ盡日晦冥トナルヲトモ夏日炎熱ノ候
 ノミヨクテ冬ノトモ此ノ襲撃ニ遇キテ常ニ

若シ昔ノ仰山ナル史家ヲ初メ記セタテ及春至正月朔天地
 晦冥雨沙傳云何カ大増ニ蓄立ル所ナキニ畢竟此
 沙塵不武藏野以來以相傳物ナルニケレト蓋シ此地ノ土著
 兵ガ遺言ニ依リテ大増ニ蓄立ル所ナキニ畢竟此
 火事ノ際ニ云ク火事ト喧嘩ハ江戶ノ花ナリト花ガ月カ
 ハ得テ知ラズトイハレ冬ニ至テハ夜中警鐘ヲ聞カザル
 ノコトナシトシテハ一夜七八回丙丁々々ノ叫聲ヲ以テ安
 眠ヲ驚カサルト有ル是ノ畢竟家屋ノ粗糲ナルト都人
 ノ火ヲ慎マザル由ルヲ謂フ火ヲ慎マザルニシテ
 不或モハ所謂野次馬連ナリトモ至テハコレヲ好ム者ア

中夜ハ火出聞ク數里ヲ遠ニシテモテ附テ救ヒ
モセテ防ギモセテ知テ警官防火卒及邪魔トナルモソ多シ
ト聞テ本町石町邊ハ人當リ曰ク三年火ニ罹ラザレバ以
テ縮聚トナルコト足ルベシ其類燒レ多キ以テ知ルル
人力車ヲ乗客トシテ人力車ハ一歩セ世ハ出テ肩輿ノ廢物ト
屬スルヤ府下數万ノ生靈ハ俄カニ足ヲ失ハルガ如ク稀
ト徒歩スルノ友人ト遇ヘハ嘲テ以テ頑トナシ貧ト曰フ目
今府下ノ車數五万以止ニ止メテ下ノ雅人使マ走ルモ此
ト乘リ炊婦ト豆腐買テ此ト認メ知ラズ都人ノ事ニ奔ル何
ゾ多キ又此ト如ク止メテ何ヲ急ムルコト此ト如ク止メテ東

郭西橋奔走烟ヲ如ク南坊北街經緯織ルガ如ク商賈トシテ
歩ム大此ト急脚ト借ル何等ノ投機ト馳ル書生ト以テ杖
ヲ此ト急足ト買フ何等ノ講學ト赴ク冀シテ位置所ト或
ヒハ數里ヲ一瞬間ニ飛ビ往キテ隔話ト三時間ヲ費スルカ
ヒハ前車ト軌ヲ又ヲ以テ快トシテ非常ノ酒價ト車夫ト食
ルトアリ會テ聞ク一漢有リ前車一輛ヲ軌ル毎コ金一錢ヲ
償フノ約トナク日本橋ト新橋ト抵ル車夫狂奔雄走矢ヲ
縱テ疾ク追ヒ趾ヲ滅シ血ヲ躡シ一瞬ニシテ新橋ト抵ル
比コハ既ニ車一百二十輛ト飛軌キタリ是ニ於テ漢遂ニ一
圓貳十錢ト償テリ痴モ亦ク甚シトイフベシ然レモ往々

其急ヲ食ルヲ甚キ兩脚ヲ以テ猶ホ遅シトナシ更ニ兩脚ヲ
 加ヘ繩ヲ車轆ニ繫テコレヲ挽カシムルアリコレヲ綱引ト
 云フ客尙ホ以テ足レバトモ不更ニ兩脚ヲ加ヘ後ヨリ車ヲ
 衝出カシメテ力ヲ助ケル有（前後合セ）コレヲ後押トイフ
 大醫某氏嘗テ論シテ曰ク人力車ノ行ハレテヨリ以テ降都人
 適度ノ運動ヲ欠ク其健全ヲ失ヘルコト以テ十年以
 前ニ比テコレハ實ニ浩歎ニ堪ヘザルモノ有リ此ヲ如キ數十
 年ニ至ラズニ遠ニ都人ノ性命ヲ短縮スルコト至リテ坊間人
 車夫ヲ狂奔スル者名々有リ太モガキトイフ蓋シ車夫が其精
 力ヲ過勞スルヲ謂フカ吾輩等ハ皆都人が過勞ニ過勞

手加國遠去其性耐チ堪キ復シテ少下リマシメテ
 祭禮ニ近味都人祭禮ヲ狂躁夫治勢ヲ減セテ然レモ餘風
 猶存スル者有リ少勤モ減シ少年神氣頭スルハ倫
 子少老著モ亦々狂頭スル以事無シトモ大聞ト在時以貧
 多歩躁ナル者往々爲メ童子賣リ妻ヲ鬻クニ至レバ今
 日斯ノ如キ甚シキ者ハ跡ヲ絶チ去レバ猶ホ黼黻ノ衣
 裳ヲ製スル能ハズ細君ノ揮ヲ典シ酒食費ヲ償フ能ハ
 ズ其爲メト身代限ヲ爲ス等ノ如キハ蓋シ少ジキモ且
 夢所請坊内燈頭ナル者ガ或ハ戸毎ニ説キ家毎ニ乞ヒテ
 大費ヲ出サシメテ若シ肯セザル者アハ坊主トシテ

患^{イメシ} 伏^{イメシ} 冀^{イメシ} ナ以^テ 復^カ 警^ス スルノ事無^レ トセズ斯ノ如キハ神ヲ
 敬スルコトアラズ^カ テ抑モ亦^タ 神ヲ汚スナリ語云ク神不
 享^ハ 非^レ 禮^ヲ 何^レ ヲ願^ヒ ヲザルノ甚^キ ヤ而^{シテ} 祭^ニ 祀^ス 狂^ス ル者ノ如キ
 ハ富者^ニ 少^ク シテ貧者^ニ 多^ク シ亦^タ 一^ノ 奇事^ナ ラズヤ
 喧嘩 都人動^ク モスレバ輒^ニ 曰^ク シ咄^ク 痴^ク 漢^ク 我^レ ナ何^レ ダト謂^フ
 東京兒ナルアト氣ヲ抗^シ 威^ヲ 軋^ス ル一句ノ遠言^ナ 万^ノ 丈怒^ル
 ナ湧^シ 忽^チ 手ヲ戟^ニ コシテ甲^ヲ 罵^レ バ乙亦^タ 曰^ク 何^レ 這^レ 股^ニ
 業^者 尿^ヲ ナ紙^レ ト早^ク 肩^ヲ 脱^シ 尻^ヲ 露^シ テ相^ニ 迎^ヒ ヒ忽^チ 一^ノ 拳^ヲ
 ヲ擧^テ ナ打一^ノ 打^ニ 來^レ バ甲急^ニ 一^ノ 棒^ヲ 引^テ ナ閃^ク 一^ノ 閃^ク 脛^ヲ 踏^ク
 ナ打倒^シ 去^ル 一^ノ 打^ニ 閃^ク 打^ク 閃^ク 忽^チ 丙^ノ 丁^ノ コレナ一^ノ 瞥^ヲ 難^ク

ニ走^リ テ助^テ 鉄^砲 ナ連^發 シ遂^ニ 一^ノ 場^ノ 爭^闘 ナ開^ク コ至^ル 此
 時遲^シ 那^ノ 時早^シ 警^官 ノ巡^行 シ來^ル 有^リ テ棍^棒 一^ノ 聲^ノ 下^ニ 被^シ
 此^ト モニ拘^引 シ去^{ラル} 此^レ 坊^間 於^テ 屢^々 觀^ル 所^ノ 光^景
 ナリ聞^ク 昔^時 ハ更^ラ ココレ^ニ 大^{ナル} モノ有^リ テ往^々 數^百
 百人相^黨 シテ格^闘 ナ試^ミ タルノ事有^リ 然^レ ドモ近^來 警^察
 ノ嚴^正 ナル漸^シ 跡^ヲ 滅^シ 今日ノ小^糺 合^ヲ ナスノミ^ニ 止^レ
 東京^ハ 舊^{モト} 德^川 氏^世 々^々 榭^營 ナ奠^キ タルノ地^{タル} ナ以^テ
 殺^伐 ノ士^氣 化^シ テ民^俗 ナシ餘^臭 猶^ホ 今日^ニ 存^{スル} モノ
 カ古人^曰 ク忠^義 ノ降^ル 激^シ テ氣^節 トナリ氣^節 ノ弊^流 レテ
 客^氣 トナルト客^氣 カ俠^力 吾^輩 得^テ 知^ラ ズトイヘは是^等 ハ

畢竟水道ノ水ヲ飲ミ誤レル連中ナクベシ（彼等恆ヨ言フ水ナリト胆大）道ノ水ヲ飲ムニ
 第三章外新聞紙ハ社説ヲ掲グルモノ
 東京ニ於テ日ニ印行スル所ノ新聞紙ハ社説ヲ掲グルモノ
 五トシ傍訓ヲ施シ專ラ通俗ヲ主トスルモノナク六トス社
 説ヲ掲グルモノナク都俗稱シテ大新聞ト曰フ紙幅最モ廣大
 八面印刷ヲ以テ定時ノ印行トスルモノ有リ或ハ
 小新聞報單マ其紙幅廣狹ノ異ヲ以テイハレモ皆四面
 印刷トシ新聞紙或ハ圖書ヲ推シモ有リ然レ

圖書ヲ加ヘテ以テ其紀事ヲ詳密ナラシムルヲ求ムル
 力ヲ用テ唯々（多ク）女子ノ眼ヲ喜バシムルニ過ギザル
 其分クハ大小ノ號アルハ敢ヘテ社運ノ隆盛記者ノ學力
 ヲ稱スルコトヲスズテ唯々紙幅ノ廣狹ニ因テ號ニ下セル
 故ニ大新聞中ニシテ或ハ其勢力遙カキ小新聞ノ下ニ
 屈スルモノアリ又ハ新聞紙ノ種類ニ依リテ日々刷行大紙
 八千枚ヲ以テ最上トシ千餘枚ヲ以テ最下トス又小新聞
 一萬餘枚ヲ以テ最上トシ六七百枚ヲ以テ最下トス其最上
 ナルモノニ至テハ出費下勞力トハ實ニ驚クベキモノナリ蓋シテ大

社ハ社長以下職工ニ至ルマデ人員凡ソ二百名。及ベリ然レドモ其社運ノ消長ハ時々變遷シテ昨日マデハ立派ナル金看牌ヲ掲グレドモ今日ハ勢力漸ク衰微。赴クアリ昨年マデハ其滅亡日ヲ期シテ待ツベキモ今年ハ社長其人ヲ得ルヲ以テ俄ニ勢力ヲ恢復シテ殆ソド昇天ノ旭日ノ如キアリ各々新ヲ争ヒ奇ヲ競ヒ客ヲ引張ルノ光景ハ恰モ娼妓ノ蕩郎ヲ誘ヒ私窠子ノ客ヲ糶ルト一般瞬間請來々々社主ハ全社ノ金權ヲ有シ社員ヲ分掌シテ社務ヲ執ラシム社長ハ社主ニ隔任セラレ紙上一般ノ事ヲ司ル面シテ社長ハ多ク筆ヲ把テ編輯ニ從事ス某社長ノ如キハ口ヲ把テ編

ノ學才ナシ意見ヲ口授シテ他局長ハ記者ヲ總監シ探訪者人ニ筆記セシムルヲ以テナリ局長ハ記者ヲ總監シ探訪者ヲ視督ス紙尾署スル所ノ編輯長ハ何等ノ職務ヲ司ルヤハ得テ知ルベカラズ記者ハ社説ヲ主トスルアリ雜報ヲ專務トスル有リ校正人ハ煩勞ナル職務ニシテ大抵午後二三時ヨリ夜ニ至ルマデ事務ヲ執リ業全ク畢リテ退社スルハ率テ午後十時ヲ通例トス探訪者ハ終日府下ヲ彷徨徘徊シテ蚤ヲ撮ルノ眼ヲ籠カシ異事奇聞ヲ聞出シテ鬼ノ首ヲ獲ケルノ思ヒナシテ歸社ス然レモ給料ニ至テハコレヲ外國新聞ニ比スルハ實ニ恥カシヤ次第ニテ某社長ノ二百餘圓ヲ受クルヲ以テ最も多額ナルモノトシテレニ以テ降

下等ノ龍者ニ至ルハ僅カシ十圓内外ニ止ルアリ探訪ニ至
 テ橋木脚ヲテシ免公耳ヲナシテ府下ニ販賣レドモ多キ
 モ三十圓ニ出デズ少キハ五圓ニ止ルトテ此ノ定價廉キ
 記者ニシテ輿論ヲ警起シ世人以耳自保ニ新モシトス抑モ
 瘦馬ニシテ重荷ヲ負ラトシ其レ此等ノ請乎イヒカ
 我が國今日ノ新聞ハ政黨ノ根據コトスルナドモイラ小六分數
 モノニナラズ故ニ其説ノ所ノ論旨モ朝田暮改屢々變更シ
 テ更ニ一定ノ意見ヲ有キ者ニ似タリ其中高尚ノ教育ヲ受シ
 者少如キ蓋シ二三名ニ過ギズ其餘ハ聊カ漢學ヲ學ビ少
 キハ英學ヲ觀キ候ト稱スル者多ク其論說卑近シ

且ツ偏頗ナキモノ。如キハ晨星落々ニシテ或ハ全ク之レ
 ニ反對セル者アリ故ニ多キ記者ノ中ニハ己レノ説ノ所ノ
 論旨ガ良キヤラ惡キヤラ分ラズシテ滅茶々々ニ其日ノ紙
 上ヲ填メテ賣ヲ塞グモノアリト會テ聞ク小新聞ノ記者ニ
 至テハ文字ヲ解スル者ノ如キハ蓋シ十中二三ニ過ギズ多
 クハ俗談平話ヲ假名ニテ述ベ立ルヲ以テ足レトシ甚シ
 キニ至テハ日常往復ノ文書ニ差支エル者有リト況ンヤ四
 角四面ナル漢文ヲヤ況ンヤ蚯蚓同様に洋書ヲヤ且ツ此
 輩ガ日々紙上ニ掲グル文ノ如キハ多クハ淫猥陋コシテ
 父子ノ間ニ於テ通讀スルコ堪フベカラズ公然猥褻ナル文

字ヲ掲ゲテ(往々春畫ノ物理代人)トシテ恥ル色ナシ而シ
 テ此輩モ人ニ對スル毎ニ傲然(ゴツゼン)トシテ曰ク僕ハ某社ノ記者
 ナリト記者ハ記者メガトハ眞ニ此等ノ謂ナラン
 號炮一聲日方ニ午ナリ受附夫子辨當己ニ喫シ畢リ呆然ト
 シテ机ニ對ス賓頭(ビンヅ)盧尊者羽織ヲ被リ南郭先生烟ヲ吹ク一
 人アリ木綿袴ヲ著シ黑紋附ノ羽織ヲ裝ヒ頗然トシテ來リ
 謁シテ名刺(ナフダ)ヲ通シ記者ニ面センコトヲ乞フ受附コレヲ記者
 ニ通ズ命シテコレヲ應接所ニ入ラシメ待タスルコト三十分
 漸クコレヲ記者出ツ客寒暄ヲ演ベ説キ出シテ曰ク本日貴
 社新聞ニ掲グル所ノ第何項雜報某家ノ件ハ事實全ク相違

セリ(眞ニ)相違カ否ハ(彼ノ)醜態ノ如キハ更ニ跡形モ無キコ
 ナレハ速カニ取消アラシメテ乞フ記者考一考シテ曰ク那
 ノ一事ハ探訪者ノ確カニ聞込ニ來レルコトナレハ決シテ誤
 謬ニ出ザルベシ因テ此事ハ熟議ノ上取計ラハソ客勃然氣
 ヲ發シテ曰ク取消ヲ承諾アラザレハソレマデノコトナリ強
 テ御頼ニハ申スマア拙者モ亦了簡方(リツカンカ)ア此段承知アレト
 起クントス記者急ニ袖ヲ留メ夫曰ク敢ヘテ取消ヲ諾セザ
 ルコアラズ(筆進マザ)委細承知セリ明日ノ紙上ニ於テコレ
 ナ掲グベシ容色ヲ收メテ曰ク拙者モ敢ヘテ事ヲ好ムコ
 ラズ屹度明日ノ紙上ヲ期スト忽卒別レテ告ケ硝戸(カラスド)碇然一

聲ヲ放テ去ル

社長座ニ在リ郵書ヲ閱ス偶マ受附來リ告テ曰ク某君來訪
 セリト社長急ニ手ヲ止メテ曰ク早ク一室へ御通_よ申セト
 直ニ入テ面ス室二人ノ外更ニ人ナシ某君曰ク爾後近況如
 何社長曰ク舊ニ依テ社務紛紜覺エズ拜趨_ま欠ク失敬々々
 曰ク今日忽卒君ヲ訪フハ餘ノ儀ニアラズ今日貴宅ヲ訪フ
 ニ不在ナリ因テ追躡_おテ此ニ至ル頃日君ガ社説ニ於テ論
 セラル、所大ニ吾輩ノ商業ヲ妨害セリ_{コヒテガハ}例ニ依テ其
 論旨ヲ豹變_ひセラレノコトヲ敢ヘテ請フ々々々々ト懷中ヲ擣
 グ一擣_ちテ一包ヲ出シ_て曰ク聊カ以テ君ガ一夕ノ飲料ニ

供スト社長笑テコレヲ諾ス眼一ニ包ニ注グ某君曰ク速カ
 ニ承知セラレ大慶々々請フ清閑來話セヨト一揖_をテ去ル
 社長竊カニ包ヲ懷ニシテ曰ク歸路車ヲ何レノ方向ニ廻ラ
 サシヤ空論モ亦化シテ金トナル斯_に至ルカ吾國新聞紙ノ
 日ニ隆盛ニ赴ク以テト_ボスベキナリ欣慶々々
 絃磔湧クガ如ク杯盤狼籍タリ數十名ノ紅裙_を席ニ列シ佳肴
 山ノ如ク綠酒泉ノ如シ客皆狂醉或ヒハ笑ヒ或ヒハ謠_をヒ或
 ヒハ坐シ或ヒハ臥シ或ヒハ舞ヒ或ヒハ躍リ或ヒハ怒リ或
 ヒハ泣ク是レ某商會ノ開業ニアタリ酒樓ニ於テ各新聞記
 者ヲ招クナリ記者多クハ鯨飲一斗ヲ辭セズ雜沓紛擾恰モ

一場ノ争闘ヲ開クト一般夜已ニ一時漸クニシテ皆車ヲ扶
ケラレテ散ス凡ソ府下ニ於テ新ニ商社ヲ開キ一事業ヲ起
ス毎ニ必ラズ記者ヲ饗應セザルハアヲズ否ラザレバ往々
其紙上ニ於テコレガ毛痴ヲ附ケラレ大ニ制肘セラル、所
アルヲ恐レテナリ聞ク客歳新設ノ某商社ノ如キハ開業式
ニ臨ミ記者ヲ招キタレドモ敬禮厚キヲ盡サバモ有ル
ヲ以テ二三ノ記者大ニコレヲ悲ミ口ヲ極メテ紙上ニ罵詈
セリ某社長大ニコレヲ懼レ速カニ第二祝宴ヲ某酒樓ニ開
キ厚ク饗應セルヲ以テ群罵忽チ止ミ肅然トシテ跡ヲ收メ
タリト世人利ヲ以テ陷ハシムルヲ号シテ口塞ケドイテ記

者ニ馳走シテ其口ヲ封ス真ニ口塞ゲノ尤ナルモノカ

第三章 貧困者

客歳ノ調査ニ據ルニ東京ノ戸數三十九万九千餘ナリトイ
ヘリ此中富豪ヲ以テ稱セラル、者千分ノ一中等ノ生産ヲ
成スモノ百分ノ一其餘ハ悉ク貧戸窮人ナリ貧人ヲ分テ又
三等トナス狭シトイヘル九尺二間ノ裏店ニ楯籠リ相應ナ
ル職業ヲ營ミ一週間ニ青魚ノ一疋グラサハ喰フヲ得ル者
ヲ上等トシ夜々鍋焼温飩ヲ街頭ニ行賣シ或ヒハ一輛ノ破
車ヲ借得テ廉價ナリトモ客ヲ乗セ日々十錢前後ノ金ヲ得
テ口ヲ糊スルモノヲ中等トス其下等ナル者ニ至テハ老テ

告ルナク幼ニシテ養フナク嚴冬ニ一領ノ單衣ヲ纏ヒ朝夕飢
 ナリトシ此ノ如何トモスベカラザルノ徒目今府下ニ於
 テ三千人以上ニ及ベリト一塊ノ煨燻以テ數日ノ命ヲ繋ギ
 一片ノ大福餅以テ半日ノ生ヲ聊ス北風霜ヲ裂キ天將ニ雪
 フラントス寡婦姪ヲ擁シテ深夜ニ喚ビ炎日金ヲ鑠シ人將
 ニ燒ケントス孤叟筵ニ坐シテ橋頭ニ拜ス觀者孰レカ酸鼻
 セザラン窮極リテ死ヲ決シ或ヒハ自ヲ縊レ或ハ水ニ投シ
 テ命ヲ縮ムルモノ、如キハ新聞紙上常ニ書スルヲ絶クザ
 ル所ナリ古語ニ云ク衣食足テ廉耻ヲ知ルト府下數万ノ下
 等人民ガ廉耻禮節ノ何物タルヲ知ラザルモノ、多キガ如

キモ亦五九千万ナルカナ

第四章 紙屑買

東京府下最モ汚穢ロシテ見苦キ市街有リ其ノ尤ナルモ
 ノチ小石川區音羽町、京橋區八丁堀、四谷區鮫ヶ橋、神田區橋
 本町、下谷區万年町、淺草區阿部川町、芝新網等トス總テ是等
 ニ住スル人物ハ恰モ土地ニ適當シテ垢面陋衣其食物モ極メ
 タ賤陋ロシテ此ノ破屋ニシテ此貧人有リトイフベシ屑屋
 ナル者多クハコレニ屯ス今屑屋ヲ分テ三等トナス屑屋ニ大
 籠ヲ擔ヒ衣汚レタレドモ未ダ肩ヲ露ハサズ足ニ古下駄
 或ヒハ古雪踏ヲ穿テ最ト古ビタル手巾ヲ以テ頭部ヲ罩ヒ

屑イハ屑イト街頭ニ呼ビ過ルモノヲ以テ上等トシ背ニ
 袱包ヲ負ヒ面垢ツケドモコレヲ洗ハズ衣ハ肩ト臂ト破レ
 タル所ヲハ幾重トモナク縫綴レ足ニ古キ麻裏草裏ノ裏無
 キヲ引掛ケ迂論臭キ顔色ヲ呈シ門前ニ佇立シ屑屋デイヤ
 イ屑ハ溜リヤセソカト喚ブモノヲ以テ中等トシ左手籠ヲ
 提ケ右手箸ヲ把リ衣破レテ腿ヲ蔽フコ足ヲズ跣足以テ霜
 雪炎土ヲ踏ミ深ク手巾ヲ以テ面ヲ覆ヒ塵塚ヲ探リ掃溜ヲ
 撈シ拭涕紙ヲ軒下ニ拾ヒ脱糞紙ヲ路次ニ摘ミ街頭ヲ走
 過ルモノヲ下等ト爲ス蓋シ此ノ輩ハ唯々貧困ニ陥ルノミ
 ナラズ兼テ不良兇惡シ徒多ケレバ昔時ハ往々人ノ不在ニ

乗シ玄關ヲ窺フヲ屢屢ヲ盜ミ或ハ傘ヲ奪ヒ甚キコ至テハ
 畫鴛鴦ハ働キタルノ事有リト然レモ今日ニ至テハ大口其面
 目ヲ改メヨレドモ尙ホ餘風存スルナシトモザレバ實ニ油
 斷スベカラザルモノトス目今府下ニ於テ屑屋ヲ業トスル
 者無慮三千人ニ及ベリ而シテ其一日獲ル所ノ利ヲ問フコ
 上等先生凡ソ五十錢内外中等夫子三十錢以降下等大八ニ
 至テハ二十錢ヨリ多カラズ五錢ヨリ少カラズ此ノ僅々ソ
 利ヲ以テ一家數口ヲ養フ其生活ノ賤陋ナルモ亦ク知ルベ
 キナリ
 此輩兎ニモ角ニモ終日屑ヲ買廻ルコ足ルベキノ資金ヲ有

スルヤト問フニ否ラズ屑屋モ亦問屋有リテ毎朝コレニ
 屯集シ資金トイヘ大抵一圓以下ニ止マレリト渡世道具即チ籠
 袱包等チ借受ケ終日街頭チ呼ビ巡リ黄昏ニ至テ再ヒ問屋
 ニ反リ其道具ト資金トチ返シ其純利チ納メテ歸ル毎日必
 ラズ斯ノ如シ然レハ動モスレバ借逃チナスノ徒有リ故ニ
 問屋コテハ嚴重ニ保証人チ立テ置キ一切其責ニ任ゼシム
 ルトイフ
 曉鴉聲無シ星尙ホ明ラカナリ東方未ダ白カラザルニ下等
 大人早ク己ニ街頭ニ徘徊シ左顧右盼以テ昨夜ノ遺品ヲ覓
 メ千搜万索以テ朝歸ノ寐惚ニ突當ル天己ニ明シレバ則チ



例ニ因テ遺紙チ拾ヒ月ヲ踏テ歸ルハ率チ夜十二時ナリ問
 屋ヨリ受取リタル金ハ僅ニ十五錢ナレドモ少シアリトモ
 錢チ懐フトムロニヌルホハ飲食ノ情紗時モコレチ抑ユベカラズ
 乃チ僕射大臣イシ店シ都俗下等酒店チ呼ビテ僕射大臣トイフ蓋
 一脚ヲ垂ル其ノ様甚ダ祠前置リクニ走リ二錢チ抛テ青魚一
 尾チ買ヒイシ生錢チ投シテ濁ニリ糲一合ヲ傾ケ二錢以テ鯽魚雜イシ繪
 チ食ヒ既ニ酔ヒ既ニ飽キ醉歩蹣跚トシテ家ニ歸レバ妻其
 米無キチ訴ヘ薪ノ竭キタルチ告シ是ニ於テ其囊チ探グレ
 ハ餘ス所僅カニ八錢ニ過ギズ妻喫驚シテ其無狀チ責ム然
 レモ其答フル所チ知ラズ乃チ口チ極メテ妻チ罵ル妻亦チ

迫リテ止マズ是ニ於テ腕以テコレヲ助ケ足以テコレヲ援
 ケ忽チコレヲ插木スリコキ籬ニ插盆碎クルノ一戰場ヲ現シ來ル戰
 ヒ未ダヌケナハ酣ナラザルニ隣家己ニ起キ早鴉曉ヲ報ス驚一驚シ
 直ニ問屋ニ向ヒ去ル
 天若シ風雨セバ出テ街頭ヲ奔走スヘカラズ乃チ家ニ在テ
 得ル所ノ紙ヲ擇ビ以テ其日ノ業トナス一漢有リ膝頭ニ籠
 三箇ヲ列シ土間ニ坐シテコレヲ精擇ス白紙有リ塵紙有リ
 毛髮有リ涕紙有リ糞紙有リ馬糞有リ犬矢有リ糞穢有リ千
 種万態擇ビ得テ一々別籠ニ入ル時ニ壁ヲ隔テ隣翁ヲ呼
 テ曰ク六兵衛爺今朝ハ大雨爲メ一日ノ業ヲ敗セテ六應

へテ曰ク天亦タ無狀ナリ近來物價騰貴シ就中米ノ如キハ
 老爺六十年來未ダ聞カザル所ナリ故ニ吾徒貧人ハ朝夕ヲ
 計ラズ然レモ爺昨新橋ニ抵ル一ノ酒樓上絃湧キ人喧シコ
 レヲ問ヘバ曰ク紳士某ノ新年宴會ナリト何等ノ喜樂何等
 ノ贅澤ゼイタクアヤ此ノ遊遊ヲ爲スノ餘財有ラバ何ツ吾徒ヲ惠マ
 ザルサ惜ムヒハハ々々々々漢慰メテ曰ク翁怒ルヲ休メヨヒ諺ニ
 云フ七頭八起ト吾徒マタ好運ノ循環シ來ル時無ラシヤ爾
 時ハ我レト翁ト西洋軒内ニ一大新年宴會ヲ開クベシト喃
 々手タリ喋々焉ハナシタリ漢話ニ乗シ誤テ拭糞紙ヲ搦ニ愕然手
 チ振テ曰ク叱敗セリ奇臭々々然レモ還ハ是レ奉書紙ナリ

何物カ敢ヘテ此贅澤ヲナク汝モ亦ク例ノ新年宴會流中カ
 惡ムベシ々々々々
 一漢有り例ニ因テ街頭ヲ彷徨ス忽チ軒下ニ一書狀ノ落ク
 タルヲ看ル走一走シテコレヲ拾フ漢少ク文字ヲ解ス讀下
 シテ曰ク借用金証文ノ事ト驚一驚忙手再讀スルニ金百兩
 也右ハ慥ニ云々ノ字ヲ認メ得タリ歡喜措ク所ヲ知ラズ天
 チ拜シ地ヲ拜シカトリアガム躍シテ曰ク嗚呼ハカミ棄神有シカミ助神有リ
 トハ其レ此等ノ謂ヒ手ト猶ホ全紙ヲ讀了スルニ天保元年
 正月二日ト有リテ債主及ビ負債主ノ紀名ハ既ニ破レタリ
 漢舌ヲ鳴クシテ曰ク這ハ是レ矢張り棄ル紙カカミ神ト紙割カミ
 相通ズ

第五章 初荷

歳首商家ニ於テ數十人ノ丁男ヲ集メ商品ヲ荷ニ造リ街頭
 ニ挽キ出シ騒ギ立ルモノヲ初荷ト稱ス其狀ハ幾多ノ荷ヲ
 車ノ上ニ積重ヲコレニ飾ルニ綵剪花ヲ以テシ或ヒハ無數
 ノ小球灯ヲ懸連テ數十人ノ壯男丁夫ガ幾輛トモナクコレ
 ヲ大街通衢ノ間ヲ挽廻リ且ツ車上ニ鼓ヲ打テ鐘ヲ鳴ラ
 シ所謂馬鹿囃子ナル者ヲ奏ス馬鹿囃子トハ所謂名詮自証カ其聲喧々
 々耳ヲ聳シ人ヲ驚カス天未ダ明ケズ東方稍ヤ白カラント
 スルニ早ク己ニ街衢ニ挽出シテ人家五更ノ安眠ヲ破リ賀
 客織ルガ如ク車馬雜沓スルノ街頭ヲモ憚カラズコレヲ橋

上ニ止メテ往來ヲ防ク眞ニ其離子ノ名ニ背カズトイフベ
シ聞ク巨商大買ノ好事者ノ如キハ初荷ノ爲メニ數百金ヲ
抛ツ者有リト東京ハ其レ奇ニ富メルカナ

第六章 劇場

府下ノ劇場新富町ニ在ルモノヲ新富坐トイフ舊猿若町三
丁目ニ在リテ守田座ト稱ス今地ニ移ルノ後今名ニ改ム演
劇會社ノ所有物タリ是レヲ府下第一ノ大劇場トス猿若町
ニ在ルモノヲ市村座猿若座ト曰フ猿若座ハ舊中村座ノ地
ニシテ都座ト稱シ後今名ニ改ム久松町ニ在ルモノヲ久松
座ト曰フ舊喜昇座ト稱シ後改ム兩國ヨリ遷レルモノナリ

彌敷町ニ在ルモノヲ中島座ト曰フ亦ク兩國ヨリ轉セル者
ナリ本郷ニ在ル者ヲ奥田座トイフ又四ツ谷ニ一場芝ニ一
場有リ其外下谷三味線堀及ビ深川仲町牛込赤城下等ニ數
所有レドモ是等ハ淨瑠璃座或ハ道外踊ト稱シテ劇場ニ列
セズ

諸劇場一歲大抵六七回演スルヲ以テ通例トス最上等ノ劇
場ニ至テハ棧敷代三圓五十錢土間代三圓ヲ收ムルヲ以テ
コレヲ合算スルトキハ其收入額實ニ驚クベキモノトス然
レモ一二座ヲ除クノ外ハ大抵負債夥シク返償ノ道無キヲ
以テ債主ニ迫ラレ已ムヲ得ズシテ時々休業スルモノアリ

故に債主モ亦劇場に貸ス所ノ金ハ非常ノ高利ヲ貸ルニ
 アラザレバ肯セズトイラ
 新當坐ノ如キハ規模宏大結構壯麗ヲ極ムルトイヘドモ下
 等ノ劇場ニ至テハ小屋掛ノ餘風猶ホ存シテ賤陋ニ堪ヘザ
 ルモノ有リ然レド府下ニハ好劇者極メテ多キヲ以テ看客
 常ニ滿テリ看客ハ棧敷或ハ土間代ノ外飲食費及ビ茶店へ
 茶代ヲ拂ハザルベカラズコレニ加フルニ院丁ノ纏頭ヲ以
 テセバ一日ノ觀娛少クトモ上等劇場ニテハ一人前三圓下
 等トイヘドモ猶ホ一圓以上ヲ費サバルベカラズ（藝看棚及
 此ノ限ニ）此等ノ輩ニ至テハ一歲間觀劇ノ爲メニ消費スル
 アラズ

所ノ金三百圓以上ニ及ナトイフ蓋シ都人ガ劇場ヲ愛願ス
 ル亦皆知ルニキナリ
 演劇ハ大抵午前七時ニ開キ午後八時ニ終フ瓦斯ヲ引キテ
 ルハ二場ノミ其餘ハ石炭油氣燈油ヲ焚立ルヲ以テ時トシ
 テハ滿場燻リカヘツテ呼吸スベカラズ（前土間小一ノ看客
 心然レド看客ハ心ヲ狂言ニ奪ハルヲ以テ毫モ以テ意ト
 セズ喝采聲ヲ枯ラシ場閉ルノ後始メテ滿面ノ黒ハミタル
 心附キ鈴ニコレヲ嘯クヤストイフ）
 狂言ヲ分テ三種トナス曰ク時代物曰ク世話物曰ク所作事
 大抵午前ハ時代物ヲ演シ午後更メテ世話物黃昏ニ至リ所

作事ヲ演スルヲ以テ通例トス或ヒハ時代物又ハ世話物ノ一部ノミヲ演スルモハコレヲ通トイフ俳優ノ眼ニ一丁字ナキハ論ナク狂言作者ノ無學無識ナルコトハ實ニ驚クニ堪ヘタリ故ニ脚色スル所ノ狂言ノ猥陋賤劣ニシテ觀ルニ堪ヘザルノミナラズ其愚蒙ヲ極メタル往々人ヲシテ辨當ノ飯ヲ噴キ出サシメ機數ノ欄干ヲ倚テ腹ヲ抱ヘシムルモノ有リ且ツ淫褻ハ狂言ノ一大部分ヲ占ムルモノ、如ク白日公然コレヲ演マテ耻ヲズコトヲ觀テ以テ娛シトスルガ如キ抑モ亦タ何ノ心ツヤ其弊終ニ婦女ヲシテ淫奔ニ陷ラシムルモノ無シトセズ若シコレヲ信テヌトイハハテ請フ

次章ヲ讀ム

第六章

(婦女ノ俳優癖)

府下婦女子ノ俳優ヲ鍾愛スルヤ恰モ天性ニ出ルモノ、如シ稚兒纒カニ語ヲ解セバ己ニ俳優ノ名ヲ語リ口猶ホ乳臭ヲ帯ナシヤモ己ニ俳優ノ紀章ヲ記シ銀香鶴ヲ誰ナリ寶結ノ何タルヲ識ル年齢己ニ三七ニ及テハ多クハ俳優ノ事ヲ聞クニ及シハ殆ント狂スルモノ、如ク實ニ本心ノ沙汰ヲ以テ目スルカラズ其演劇ヲ觀ルニ方テハ恍々惚々痴ナルガ如ク頗ルガ如ク狂言ヲ何物タルガ如キハ措テ問ハズ双眼ニ俳優ノ面ニ注ギ流涎千尺漲テ膝ヲ漂スラ

知ヲズ其眼ヲ説シ其鼻ヲ賞シ其口ヲ褒メ併セテ其尾ニ及
 フコレヲ廣人稠坐ノ中ニ説テ耻セズコレヲ父母ノ面前ニ
 惚ケテ憚ルノ色オキモノ滔々皆是レナリ甚キハ則チ其
 ノ穢餘ヲ穢紙ヲ拾テコレヲ神符袋ニ秘藏シ時ニコレヲ
 拜シ時ニコレヲ舐ル其寫真ノ如キヲ常ニコレヲ秘匣ノ中
 ニ藏シ朝夕拜シテ以テ敬禮ヲ盡スコ宿ニ佛者ノ偶像ニ於
 ルノミヨアラス良家ノ處女ニシテ往々俳優ノ紀章ヲ以テ
 至貴至重ノ寶物トナシコレヲ金釵ニ彫リ并楠ニ描カセ或
 ハ指環ニ印シ或ハ手巾ニ染ム嫁スルノ後ニ至テモ猶ホコ
 レテ改メザルモノ有リ亦タ驚クベキノ怪事ナラズヤ而シ

テ俳優ガ滿都ノ婦女ヲソ愛戀ノ情ヲ起サシムル斯ノ如キ
 ニ至ル者ハ何ゾヤ其容貌果シテ美ナルガ爲メ乎曰ク否俳優
 優登ニ悉ク美ナランヤ鼻ノ曲レル南部雄ノ如ク面ノ凹メ
 ル蓮花七ノ如クナル有リ然ラバ則チ服飾ノ美ナルガ爲メ
 乎曰ク否美服ニ富メル俳優ニ倍スル者有リ然ラバ則チ何
 ヲ以テ此ノ如キヤ曰ク是レ他ナシ演劇ノ脚色多クハ假藝
 ニシテ俳優ノ場ニ上ルヤ巧ミコ男女相慕フノ情態ヲ摸ス
 ヲ以テ遂ニ淫婦蕩女ノ心ヲ動カシ延テ滿都ノ風習ヲ醸
 成スルニ至レルナリ聞ク往時ハ公然蝶狂ヒ花顛スルノ態
 ヲ演シ雲行キ雨施スノ情ヲ摸セシカドモ近來警察ノ嚴正

ナル漸ク其跡ヲ滅スルニ至リタリト東京府下淫俚ノ問屋
 陋醜ノ元祖ヲ問ハバ官ハズシテ其何タルヲ知ルヲ得ベキ
 ナリ
 母俳優某ヲ愛スレバ子亦タ某ヲ愛シ孫亦タ某ヲ寵ス子々
 孫々相承クルハ恰モ東京ニ於テ俳優癖ハ封建ヲナセルモ
 ノ、如シ會テ某家ニ於テ婚嫁ノ事ヲ議スルアリ母曰ク聞
 シ新郎ハ俳優團十ヲ愛シ其家ハ世々成田屋宗マトト敢テ
 ニヲ信スル而シテ妾ハ幼ヨリ音羽屋ヲ信ス菩提所ハ護國寺ニアラズ今
 ノ菊五モ亦タ鐘愛スル所ヨリ夫レ成田屋ト音羽屋トノ藝
 ハ逕庭ノ異アリ然ルニ今兩家婚ヲ結ハ、杆格相容レズ異

日必ズ離婚ノ變有ラン今ニシテ議ヲ破ルニ如カザルナリ
 ト議遂ニ破ル又芝コ一未亡人有リ嘗テ坂東某ヲ愛ス某大
 坂ニ於テ客死シ訃至ル未亡人愁傷哀毀骨ヲ殺ギ俄カニ狂
 スルモノ、如ク直ニ持佛堂ニ向ヒ亡夫ノ靈牌ヲ撤シテ代
 ルニ某ノ促影畫ヲ以テシ僧ヲ招キ經ヲ誦シ絶食數日ニ迄
 ペリト亦タ奇ナルカナ
 意哀イ哉愛顧深厚ナル市川某ハ冥風ニ誘引セラレ蓮臺ニ
 轉ゼル顛末ヲ看一看セロト聲音悽愴トシテ街頭ヲ行賣ス
 ルモノハ是レ俳優某ノ訃ヲ賣ルナリ畫クニ其肖像ヲ以テ
 シ題スルニ辭世ノ俳句及ビ佛證ヲ以テス其伝ナル所ト辭

ノシカラズ就レカ鳥カ各家争フテコレヲ買フ唯々婦女子ノヨ
 然リトスルコアラズ堂々タル講丈夫モ亦ヲ爲メコ涙ヲ漣
 ギ者有リ而シテコレヲ叫ブ者ノ如キハ一日ノ行賣以テ數
 日ノ腹ヲ肥スニ足ルトイフ
 夜色寂然月影朦朧ホホ柝響キ鍾鳴ル聲ヲ張テ曰ク遠者ハ
 傳聞ス近者ハ就テ看ヨ三升ノ裝亦壯ナル哉目今流行ノ
 白柄鯨來テ娼門ニ入レハ忽チ極樂淨土歌舞菩薩影向シテ
 眞マコト是レ天女降ル百花撩亂ハナハナ仲街ノ間チウケ西ニ富嶽有リ
 北ニ筑峰有リ請フ相競アヒ伊達衣裳集リ聞ク堵ノ如シニ
 齊聲ヲ放テ曰ク呀川崎屋曰ク松島屋齊ク錢ヲ投シテ去ル

都俗コレヲ假聲トイフ人ヲ愛シテ屋鳥イヘノカラスニ及ビ借テ憎テ袈
 裟ニ至ル其人ヲ受シテ其ノ假聲ヲ買フニ至ル都人ノ俳優
 ニ癖スル亦ク至レリトイフベシ而シテ此輩ニ金ヲ抛ツノ
 多キモノハ酒樓ノ婢女、藝妓、娼婦ノ徒ナリトイフ
 窓戶深ク鎖シテ硝灯影暗シ一末亡人頭ヲ延ベ尻ヲ擡ゲテ
 俳優某ノ至ルヲ待ツ蓋シ嘗テ院丁ヲ介シテ俳優某ヲ誘ハ
 シムルナリ獨坐無聊悶極テ泣カントス控裏竊ニ思フ那ノ
 俳優ニハ嘗テ數十金ノ纏頭シツヲ與ヘ且ツ樂屋被ト金時器ト
 ヲ贈リ一擲以テ願ミザルモノハ竊カニ其歡ヲ買ハント欲
 スレバナリ而シテ無情此ノ如シ何等ノ薄倖ウハバキヲヤト急ニ樓

下^クリ車ヲ命^メテ去^リラントス樓婢^ヲ僅^ニ遠^クコレヲ止^メテ曰^ク善^ク公^ノ院^名將^ヲ歸^ラントス請^フ少^クコレヲ忍^ベト舞臺^一轉^シ爲^ニ待^合樓上^ノ光景^ニ某何^ゾ未^亡人^ノ待^ツテ關^セン一^藝妓^ヲ擡^ヒコシ談^方ニ熟^スルノ時^ナリ^文或^ハ假^衰ニ^シ恐^ル故^ニ零^記ス^妓眉^ヲ揚^ゲテ曰^ク昔^々親^方坊^間俳^夫ヲ尊^稱ノ囑^ニ應^ジテ贈^ル所^ノ一^百ノ金^ハ千^辛万^苦シテ呢^客ヨリ錦^帶ヲ購^ヒ或^ハ金^指環^ヲ買^フニ托^シテ乞^ヘル所^ナリ且^ツ今^贈ル所^ハ妾^ガ正^服ト珊瑚^簪ヲ典^シテ以^テ一時^親方^ノ急^ヲ救^ヘリ請^フ少^シ衷^情ヲ憂^憐セ^ロト泣^下ル時^ニ樓^婢遽^ニ登^リ來^リ某^ニ耳^語ス某^藝妓^ニ說^キ俄^ニ事^有ルニ托^シ忽^卒下^リ去^ル舞臺^又轉^シ爲^ニ前

未亡人之所

第七章 演說會

某社演說

來ル某日午後一時ヨリ淺草某樓ニ於テ開ク傍聽料金十錢

會員 園花高 弁尾好 飛田憶拙 花下養 言丈徒太

郎 寄波好運

右ハ新聞紙上ノ廣告ニ於テ常ニ見ル所ナリ演說會ハ大抵土曜日或ハ日曜日ヲ以テ開ク彼ノ大先生ノ大演說ノ如キハ暫ク措キ近來比々トシテ開ク所ノ泥摸演說ノ狀ヲ左ニ掲クベシ

聽客ハ上學者紳士ヨリ下書生小僧ニ至ルマデト言ヒタキ
 ガ中々以テ左ニアラズ毎會集合スル所ノ聽客多キモ二百
 名ニ上ラズ是トテモ放浪書生カ或モ田舎地方ヨリ都下
 ニ止宿セル者ガ無事ニ苦ムノ餘一日ノ鬱ヲ散ゼントシテ
 至ル者多キコ居レリ決シテ本氣ノ聽客ニアラズ會亭ノ入
 口ニ下足番有リテ切符ヲ交付シテ展香ヲ收ムト怡モ寄席入
 ル數歩ニシテ切符賣場有リ是亦寄席ノ聽客皆惜セサウ
 ニ懷テ撈リ謹テ十錢ヲ投シテ場ニ入ル雜沓紛紜語々喧々
 リ是亦寄席ノ落叫家未既ニシテ時器一時ヲ報ス會場ニ
 中等ノ設計ヲ探ス銘々ノ懷演說先生出テ中央ノ机前ニ直立ス
 中等ノ設計ヲ探ス銘々ノ懷

衆皆ナ先生ノ名言ヲ吐ク時ニ當ラハ必ラズ手ヲ拍テコレ
 ヲ賞讃ス其音丁々タリ是レ成田屋、成駒屋等其演說ノ題目
 ヲ認グルニ曰ク東洋論曰ク佛國革命ヲ論ズ曰ク府民ニ告
 グ曰ク自由貴ナベシ曰ク工業興サザルベカラズ曰ク何曰
 ク何ト相モ替ラヌ題ヲ掲ゲテ喃々喋々數時間ヲ費シテ聽
 客ノ欠極リテ睡ヲ催スヲ厭ハズ或ハ從來辨ニ訥ニシテ己
 レハ分ツヲモ聽客ノ解シ能ハザルヲ知ラザルアリ或ヒハ
 雄辨屁ノ如ク立消シ或ヒハ論旨蒸氣ノ如ク烟トナツテ散
 ス甲退テ乙代リ乙入テ丙出ツ新陳交代己ニ數名ニ及ベ
 既ニシテ大先生出テ衆ニ一揖ス群衆頓ニ收マリ滿場肅然

タリ大先生蓬頭ヲ振一振シ硝杯ノ水ヲ以テ舌本ヲ滑ラカ
 ニシ説キ出シテ曰ク吾輩ハ本日像テ會場ニ示セル如ク婦
 人ノ品格ヲ論ゼントス抑々東洋人ノ性質タル久シク卑屈
 ニ安セルヲ以テ男子ヨシテ猶ホ自由ノ尊ムベキヲ知ラズ
 矧ンヤ婦人ヲヤ名々婦人ハ唯マ從順ヲ以テ無上ノ美德ト
 ナシ從順ナル者ハ常ニ世人ノ稱賛シテ措カザル所トナレ
 ヲ然レモ吾輩トテモ敢テ婦人ノ氣力ニ活潑ナルヲ欲シテ
 牝鷄ノ晨スルヲ好ムコアラズ唯ニ其企望スル所ハ則チ婦
 人ハ婦人ノ品格ヲ保有シテ濫リニ嬋娟ノ色婀娜ノ態ヲ呈
 スルヲ以テ貴重スベキモノトナサズ優ニシテ肅ナラシメ

望マズンハアラザルナリ拍手然ルニ東洋ノ婦人タル只管
 深閨幽窓ノ中ニ生長シテ人ニ接スルニ慣レザルヲ以テ已
 ニ嫁スルノ後トイヘドモ焉イッセン男子ノ列席ニ進テ其品格ヲ
 保有シ應接ヲ全フスルヲ得ンヤ看ヨ藝妓ノ往々鼻進シテ
 紳士ノ妻トナルノ榮ヲ辱カガシケナフスルモノハ唯ニ其端ハ唄ウタ都ト々一
 ニ巧キヨミナル清元モト一チウ中ニ長セルノ致ス所ニアラズ是皆ニ彼
 等ハ自ラ禮遇ニ長シ杯盤狼籍壽手ス々古跡コキドリノ席ト雖モ能
 ク其品格ヲ保チ禮節ヲ誤マザルニ由レルナリト説テ斯ニ
 至ル拍手雨ノ如ク衆皆喝采ス大先生得色甚シ腰間ヲ探リ
 時器ヲ按シ再ビ衆ニ告テ曰ク時已ニ五時ニ近シ本日ハ此

レヲ以テ閉會トナスト衆俄カニ喧雜シテ去ル
 聽客既ニ散スルノ後幹事席費ヲ合計シ大先生ニ呈スルニ
 若干金ヲ以テシ餘ハ以テ小先生數名ニ割與フ善イ哉陳孺子ガ宰クル
 又或ヒハ聽客ヨリ席費ヲ受ケズ始メヨリ傍聽無料ノ廣告
 ナナスモノアリ是等ノ如キハ演說者ノ何タルヲ問ハズ無
 ヲ價ホド安キモノハ有ラザレハ聽客北ヨリ南ヨリ西ヨリ東
 ヨリ群集シテ滿場立錐ノ地ナク遂ニ來客ヲ謝絶スルニ至
 ルノコト有リ然レモ傍聽無料ノ如キハ蓋シ十中ノ一ニ過ギ
 ズトイフ頃者聞ク會員或ヒハ席費分與ノ事ニ付キ往々紛
 議ヲ起シ再ビ出講スルヲ類セザル等ノ事有リト或ハ然ラシ

明治十四年一月八日出版御届
 同 年同月九日發行

〔二十錢〕

著述者

新潟縣平民

松

村

操

神田區佐久間町
 二丁目十一番地

出版者

東京府平民

望

月

誠

京橋區南鍋町一
 丁目七番地

發兌元

東京南鍋町一丁目七番地

兎

屋

誠

大賣捌所

大阪唐物町三丁目

同

支

店

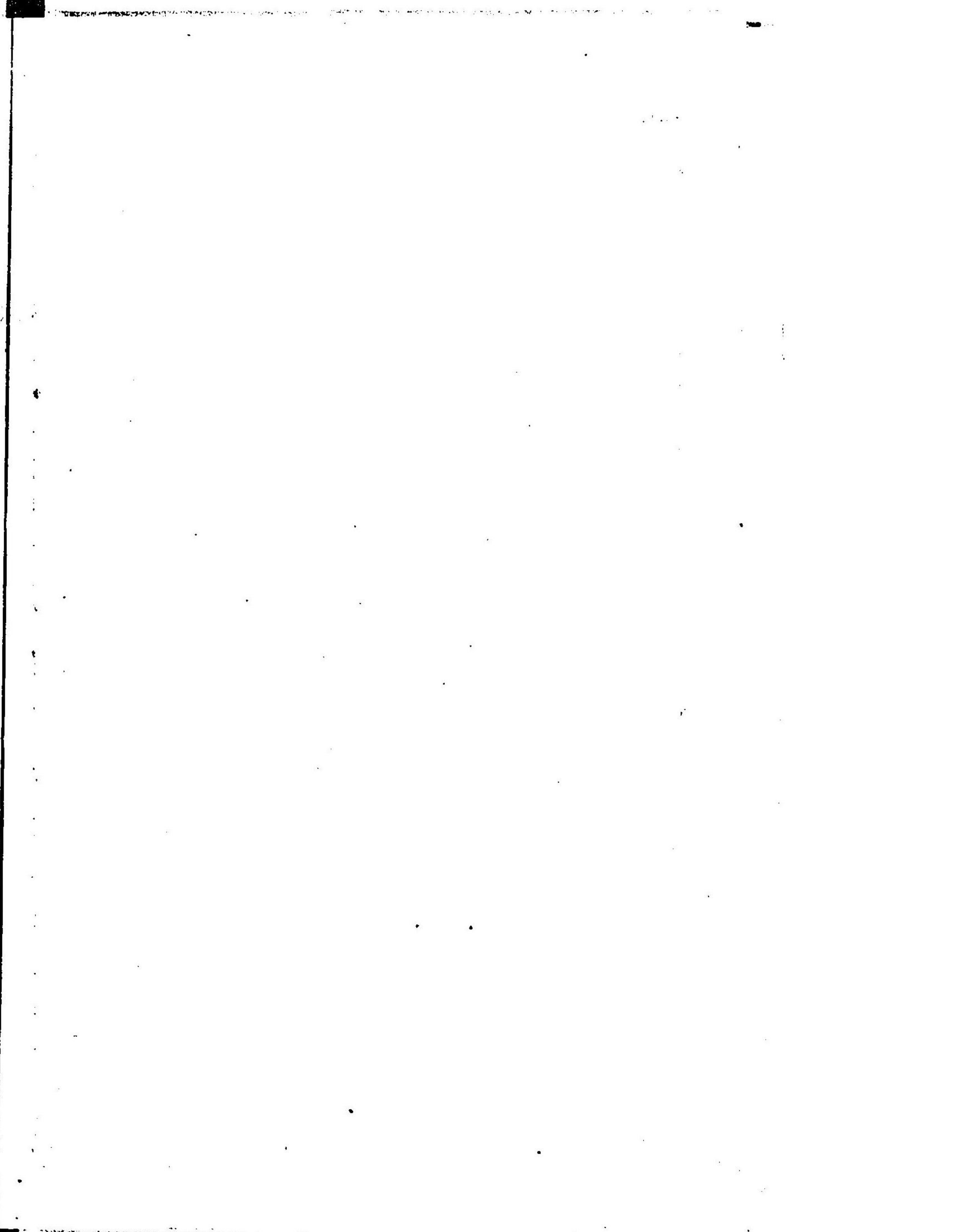
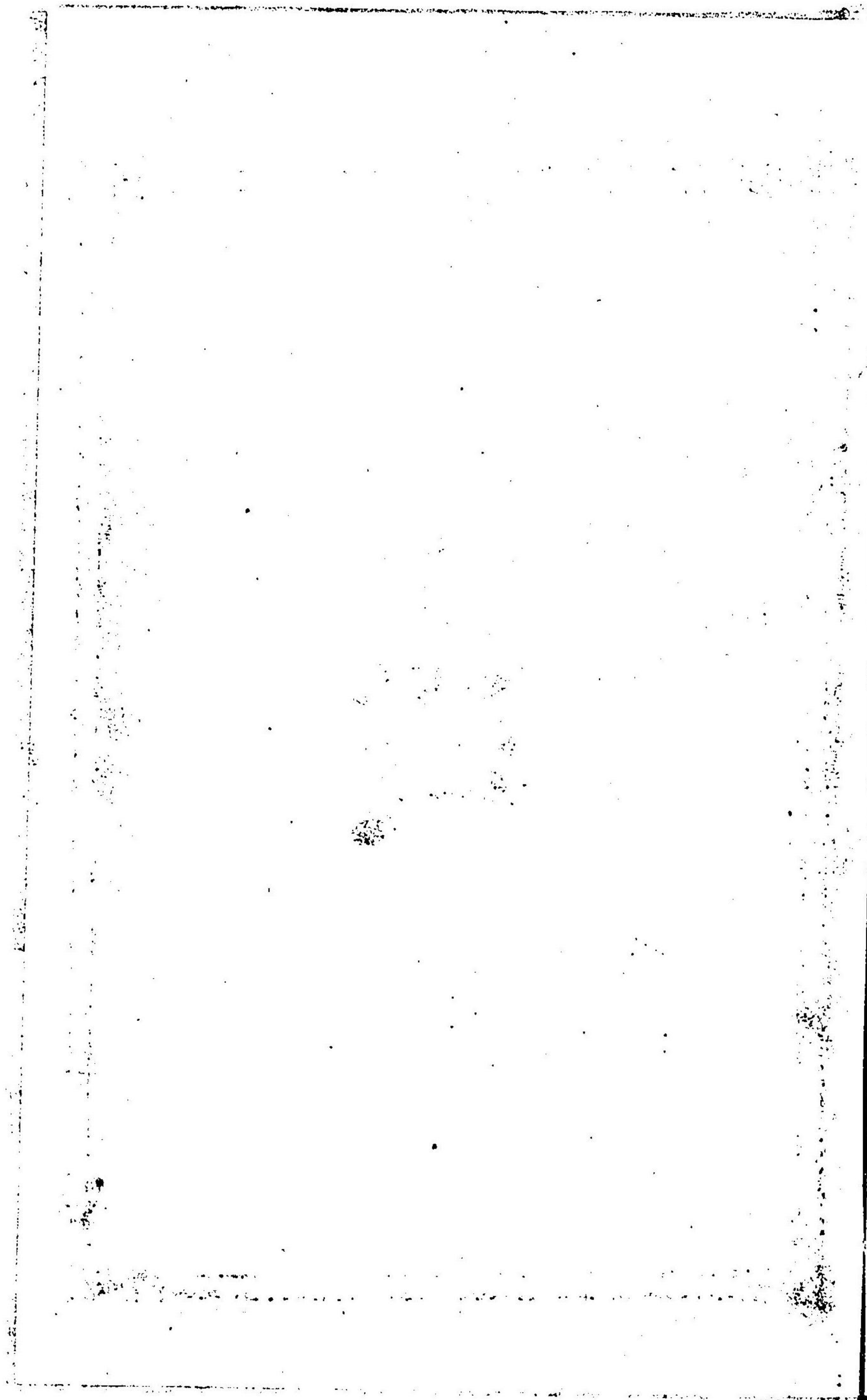
同

東京三島町

山

中

兵衛

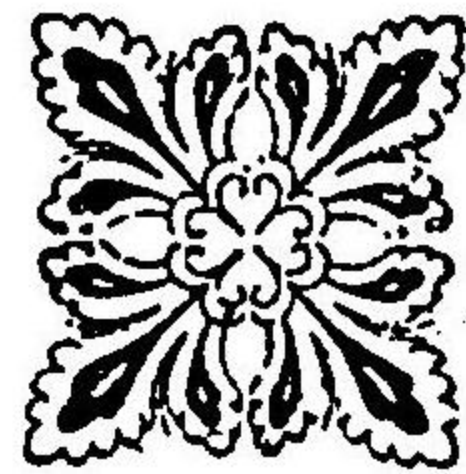


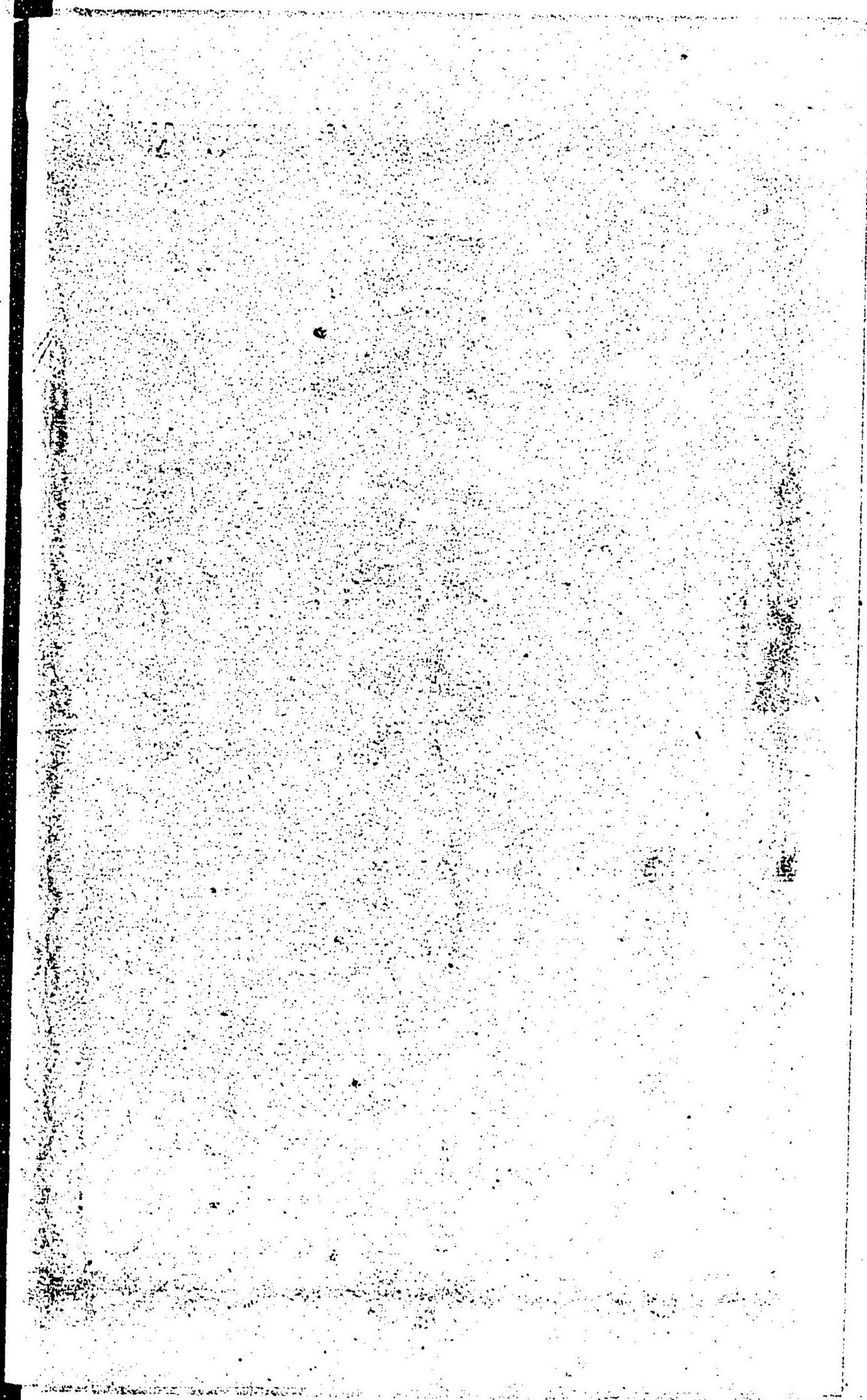
松村操編著

東京穴探
二篇

明治十四年
一月發行

思誠堂藏版





東京穴探二編

松村操著

○第一章 懇親會

目今都下ニ於テ懇親會ノ行ハル、ハ人ノ能ク知ル所ニシテ客トシテ懇親會ヲ説ザルナク新聞紙トシテ懇親會ヲ廣告セザルナク紳士モ曰ク懇親會書生モ曰ク懇親會商モ曰ク懇親會開クベシ八公モ曰ク懇親會アモ遣ッ付ケヤイト懇々親々都人ガ親睦懇和シテ酒ヲ飲ムハ蓋シ亦凡ソ懇親會ヲ分テ三種トナス曰ク同業懇親會曰ク同窓懇親會是レナリ蓋シ其性質ノ大



意ニ據ルニ同業會ハ業務ヲ同フズル者ヲ相集合シテ益々
 其交誼ヲ密ニスル者ナリ同縣會ハ舊貫ヲ同サセル桑梓ノ
 舊友相會シテ舊盟ヲ溫ムル者ナリ同窓會ハ嘗テ同學塾ニ
 在テ學ヲ共ニセル者之相會シテ盛雪ノ舊情ヲ語ルモノナ
 リ先ヅ其性質ヲ揭クハ斯ノ如クハモ今日事ヲ
 都下ニ行ハル、所ニモ入ル右ノ注交通リニ協フヤ否ハ嘗
 テニタビ是等ノ會ニ出席セル人ハ熟知スルトゴロナラン
 左ニ其ノ一端ヲ揭ク餘ハ類推スベシ
 會ヲ開クニ必ラズ發起人ナル者有リテゴレテ音唱シ世話
 好者々々自ラ幹事ノ名ヲ負ヒ四方ニ奔走シテ同志者ヲ募

ル應スル者已ニ其數名有リ是ニ於テ新聞紙上ニ廣告シテ
 云ク某地懇親會來ル何日某樓ヲ於テ開ク請フ有志者貴臨
 有レ但シ廣費何圓ノ事ト大抵席費ハ貳圓ヲ以テ高等ノモ
 ノトシ多クハ三圓以下五十錢以上ニ止マルモノノ如ク一
 方出席者夥ト所謂廉ヲ以テ勝ヲ制スルモノ歟(觀者以謂
 ラク某地ハ吾ガ郷土セリ今冠スルニ其地名ヲ以テス如何
 ナル事ヲカ做スヤ赴テ觀スベシ何チ食テモ席費ヲケケ
 ラキノ填草ハ有クオラゾト是ニ於テ本日例刻ヲ以テ四方
 ヨリ群集スルコト恰モ蠅ノ臭物ニ集ル蟻ノ甘菓ニ群スルト
 一般華衣美帽八字鬚ヲ鼻下ニ横ヘ威氣揚然トシテ手前車

ヲ門前ニ横附ヨコヅケコスルモノチ上ノ上トシ蠟虎ロウコノ帽チ戴キ肩カタ懸チ纏カマヒ猪虎イブキ平々々々然トシテ踵ヒソルモノチ並上トシ是ヨ
 リ以下カ至チハ辻車ツギクルマニ懸スル者有リ杖シテ徒行カマキスル者有
 リ亂髮蓬ワザレシ如ク衣破レテ綿ワタチ現アラハス者有リ古コビタレドモ洋
 服ニ身ヲ固カガメ破レタレドモ沓ウパチ穿テ開化ノ窮神ヒンカウカニ擬セシ
 者有リ書生羽織ハ長シ足駄ハ高ク月落鳥啼チ微吟シテ至
 ル者アリ千狀万態尽ク得テ名狀スニカタズ衆皆席シヤクコ入リ
 喧々ケンケン々々席シヤクコ高下ナク序シヨコ長幼ナシ既スニテ發起人起テ
 衆客シヤクニ向ヒ其ノ出席チ謝シ并セテ本會チ開ク所以チ演説
 大聲微シヤクコシテ滿場ニ達セズ片隅シヤクニ坐スル者ノ如キハ時々

演説者ガ口チ開クチ見ルノニハ是亦タ恐親會暫クシテ拍手
 シ聲俄カニ起ルチ聞ク是ハ於テ僅カニ演説ノ始メチ終
 クルヲトハカレ大既ハコシテ杯盤席シヤクコ列シ酒湧キ妓現ル然レモ客
 皆左チ瞥ハカレテモ右チ視テモ皆ハ一面語ハチモ無キ人ノニナシ
 ハ語ラント欲スルニ由ハチ話セント欲スルコ友チハ只
 無性ハニ肴チ食ヒ無暗ハニ酒チ倒スノニ辛ウシテ席隅シヤクニ於テ
 一知己ハノ坐スルチ認シルチ得ハチ喜悅面ハニ溢ハレハ中ハ一孤島ハヲ
 發見スルハ急ハニ膳ハチ携ヘ就ハテ献酬ハ交錯ス是ニ於テ三々ハ伍ハチ
 爲シ四々ハ固ハチ爲シ舊知友チ除クノ外ハ滿場ノ人誰ハ誰ハチ
 リ何ハ何ハタルチ知ルコ由ナク既ハニ醉ヒ既ハニ飽キ雜沓喧嗽

各々勝手氣儘キ儘に去ル或ル人曰ク此ノ如クハ寧ロ二三ノ知友相會シテ適意ノ飲ヲ爲スニ如カズ吾輩今日行ハル、所ノ如キハコレヲ稱シテ懇親會トイハズ改メテ混親怪ト曰ハシソモ亦言少ク傲コ似シタレドモ亦無理無キコトアラズイフベシ也

聞ク某地懇親會ハ初メ出席者三百名以上ニ及ビ頗ル隆盛ヲ極メタリ第二會ヲ開クニ至テ席上招カ所ノ妓悉ク幹事一個ノ私愛ニ出テ且ツ人モ知ラ御定情カノ某ヲモ公然トシテ席ニ列セシメ會畢ルニ後歸路直ニコレヲ待合樓上ニ引張込メテ會員或ヒハコレヲ知ル者有リテ議論

百出衆皆大其横肆コトナル實ニ後會ニ至テハ一人ノ出席者無カレト云フ奇モ亦甚シクイフベシ又一會有テ會終ルニ後發起人幹事相集リテ席費ヲ計リ酒食雜費ヲ供ヒ餘贏若干ヲ得テ其金ヲ處スルニテ衆議協ハ必相共ニ怒テ終ニ爭闘コト惹起シテ至リ以テ爲スニ會亦再ビ開カズトイフ懇親會ニ於テハ化シテ喧嘩會トナル蓋シ各實ニ頗倒スル是ヨリ甚シク人オタザルベシ

○第二章 婚姻

凡ソ都下ニ於テ婚姻ヲ結ブニハ媒酌人ヲ介シ見逢式ヲ行ヒ而シテ後結婚ノ典ヲ舉グルハ蓋シ正則ナリトイヘドモ

這ハ是レ上等社會ノ事ニシテ中等以下ニ至テハ此ノ如キ
ハ甚ダ見ルヲ稀ニシテ多クハ變則ヲ用ヒ同ク一家ニ住
シ財產ヲ共ニスル者ト雖モ概テ結婚ノ禮ヲ行ヒシ者ニア
ラズ私通セシ後何時トナク入り來リテ山神ノ位ニ陞リ或
ヒハ東家ノ女奔テ西家ノ婦トナリ遂ニ夫婦ノ籍ヲ定ムル
等蓋シ尠シトセズ甚シキニ至テハ堂々ト紳士ノ名ヲ負
フ者ニシテ初メ泥水社會ニ聘シテ其權君ガ改メテ正位
ニ就キ御廣メモ無クシテ終ニ與權ノ尊号ヲ享クル等有ル
ハ比々トシテ見ル所ナリ紳士既ニ斯ノ如シ況ンヤ貧賤
ヤ況ンヤ八職社會ニ貧人ノ子既ニ二十歳ニ及ベバ父母

ノ所ヲ去テ自ラ貧人ノ女ト合シテ九尺二間ノ裏店ヲ借込
ミテ城郭トナシコレニ立籠リテ生活ヲ爲ス其生ム所ノ子
亦此ノ如ク其孫亦此ノ如ク子々孫々相繼ギテ結婚ノ大切
タルヲ知ラザルモノ、如シ故ニ一身ノ生活ヲ計ル能ハズ
シテ已ニ婦ヲ蓄ヒ無暗矢鱈ニ子ヲ舉グルヲ以テ遂ニハ其
子ヲ養育スル能ハズ甚シキハ道路ニ棄ルニ至ルハ常ニ珍
ラシカラザルヲナリトス嗚呼貧人ノ滔々トシテ日ニ月ニ
繁殖スルモ亦宜ナルカナ
中等以上ノ産ヲ有スルモノ、如キハ大抵男子二十歳前後
女子十四五歳ニシテ結婚スルヲ以テ常トス男女早婚ノ害

ノ如キハ衛生學士ノ常ニ論シテ措カザルトコロナリ名醫
 某氏曰ク都人ハコレヲ田家ノ人ニ比スレハ率チ虛弱ニシ
 テ無病健全ナルハ蓋シ十人中一二名ニ過ギズト是レ種々
 ナル原因有ルベシト雖モ早婚モ亦タ一部分ヲ占ムルモノ
 トイフベシ又立派ニ結婚ノ禮ヲ擧ゲタル夫婦ノ如キハ多
 クハ父母ト父母トノ結約セルモノヨシヲ婚禮ノ當日ニ至
 ルマデハ夫妻トモニ其ノ性質品行ハ扱置キ其容貌ノ美醜
 チモ知ラザル者多シ故ニ往々新婦ハ定メテ巧笑倩タリ美
 目眇タリトハ行カズトモ十人並グラサデハ有ルベシト想
 ヒノ外新婦ノ鼻ハ頰ヨリ低キ一三寸顔面ハ頭髮ヨリ黛黒

ニシテお負ニ痘痕滿面ヲ覆フノ醜女ナレバ新郎ハ一瞥魂
 チ潰シ膽ヲ冷シテ即夜忽チ破鏡ノ掛合ト變ズル等ノ如キ
 ハ常ニ聞ク所ナリ亦タ奇ナリト謂ハザルベケンヤ
 既ニ結婚ノ式ヲ行フトイヘドモ戶籍編入チ怠ル如キハ都
 人ノ常ニ顧ミザル所ナリ故ニ正シク夫婦トナリタルモノ
 ト雖モ擧グル所ノ子チ私生ヲ以テ届出ルヲ有リ畢竟都人
 ガ速ニ送籍チ肯ゼザル如キハ蓋シ離縁チスル時ハ面倒ナ
 レバ暫ク寄留届チナシ置クコソ好カルベケントノ意ニ出
 ルモノナルベシ都人動モスレバ輒チ曰ク夫婦ハ離レモノ
 、合ヒモノナレバ厭ナラ直ニ出テ來レト婚姻ノ大禮チ輕

スル斯ニ至ル果シテ何ノ心ツヤ
 都下又々各戸ニ周旋シテ婚姻ノ結約ヲ以テ業トスル者有
 リ此輩多クハ數醫^{ダイ}辯^{コモ}間者流等トス甲家ニ就テハ乙家ノ女
 ヲ褒^ホメ乙家ニ入テハ甲家ノ男子ヲ賞^ホ讃^ルス其言ノ甘ヤ砂糖
 ノ如ク其舌ノ輕キ芳野紙ノ如シ若シ此輩ノ巧言ニ欺カレ
 婚姻ヲ結ブキハ後必ラズ種々ノ葛藤起リ遂ニ破縁ト爲ル
 一多シ又雇人受宿ニシテ往々婚姻口入所ノ招牌ヲ掲^カグル
 モノ有リ都人或ヒハ是等ニ就テ娶嫁ヲ求ムル者有リト云
 フ
 江月影無ク夜風凄然^{サヒシ}タリ吾妻橋上行人跡ヲ絶テ夜方ニ十

二時ナリ一處子有リ亂髮^{ムス}跳足橋頭ニ佇立シ慘然涙ヲ吞ミ
 天ヲ拜ス既ニシテ身ヲ決^{ハダシ}シ洵然一聲忽チ水ニ投シ去ラシ
 トス此時遲^{オシ}シ那^{ハヤ}時疾シ角灯暗チ照ラシ走一走シ來リ忽チ
 袖ヲ曳テコレヲ留ムル者有リ處子悶身再ビ投セントス聲
 チ發シテ曰ク予ハ查官ナリ請フ心ヲ鎮^シメヨト處子看一看
 シテ地ニ伏シ泣涕雨ノ如シ敢テ其死セント欲スル所以ヲ
 問フ處子涙ヲ拭テ曰ク妾^{ワタシ}ハ某地ニ於テ木綿問屋ヲ業トス
 ル某ノ二女ナリ頃日父母妾ヲ以テ東隣ノ長男某ニ嫁ガシ
 メントス然レモ妾^{ツラッ}熟ラ某ノ人ト爲リテ視ルニ品行修マラ
 ズ常ニ花柳郷裏ニ沈泊ス以テ所^カ夫ト仰クベキノ者ニアラ

ズ故ニ屢々コレヲ父母ニ告ゲテ辭スレドモ肯セラレズ妻
夙夜憂悶措ク所ヲ知ラズ事斯ニ至ル所以ナリト泣涕禁セ
ズ查官百方コレヲ慰諭シ遂ニ分署ニ向テ拘引シ去ル

○第三章 ケイツ買

「ケイツ買トハ賊物ヲ賣買スル者ヲ唱フル號ナリ蓋シケイ
ツ買ト盜賊トハ密附シテ相離レザル猶ホ陰陽水火ノ如シ
若シ一者ヲ欠ケハ作用ヲ爲ス能ハザルナリ如何トナレバ
盜賊有リト雖モケイツ買有ラザレバ賊品ヲ鬻グ能ハズケ
イズ買有リト雖モ盜賊有ラザレバ其賣買品ヲ得ルニ由無
レハナリ然レドモケイツ買ハ眞ノ盜賊トハ異ニシテ己レ

直ニ物品ヲハ盜マズシテ唯ダ盜賊ヨリ買取リコレヲ四方
ニ賣捌クノミ
凡ソケイツ買ヲ分テ三等ト爲ス盜賊ニ密接シテ賊品ヲ買
出ス者ヲ下等トス此輩ハ資金ヲ有セザレドモ得ル所ノ利
益ハ最上ヲ占メ諸財物ヲ盜賊ヨリ買取ルノ價ハ蓋シ實價
十分ノ一ニ出ザルヲ以テ常ニ巨利ヲ攫スト云フ中等ハ下
等者ガ買取セル品物ヲ買廻リナコレヲ賊物問屋ニ送り幾
分ノ利ヲ得ル者ニシテ此輩ハ時トシテハ下等者ニ資金ヲ
貸スノ事有リ故ニ下等者ガ盜賊ヨリ買ハントスル品物ノ
高價ナルキハコレヲ此輩ニ謀ツテ取引ヲナスト云フ上等

ハ所謂賊物問屋ナル者ニシテ常ニ中等者ヨリ幾多ノ品物ヲ買入レテコレヲ各地方ニ輸出スルヲ業トスル者ナリ此輩ハ下中等二者ニ比スレバ利益甚ダ多カラズト雖モ然レモコレヲ正業ヲ營ムノ商買ニ比スレバ蓋シ三倍ニ上ルト云フ

中等「ケイツ」買ノ上等者ニ品物ヲ賣ルヤ必ラズ此品ハ何處ノ出品ニシテ此物ハ何人ノ盗出セルナリト告グ上等者ハコレヲ聞キ其出所ニ從テ或ヒハ之ヲ東國ニ送り或ヒハ之ヲ西州ニ輸シ務メテ失者ノ發見ヲ防グ是レ賊物ノ容易ニ知レザル所以ナリト云フ或ヒハ曰ク「ケイツ」トハ蓋シ「ケイツ」系圖

ノ義ニシテ其出處來歴ヲ糺シテ賣買スル猶ホ人ニ家系アルガ如キヲ謂フナリト吾輩説ノ可否ヲ知ラス體テコレヲ世ノ考證先生ニ質ス

下等者ノ如キハ主顧ノ盜賊アラザレバ業ヲ營ム能ハザルヲ以テ常ニ有名ナル盜賊ニ交ラソフヲ求メ往々故ヲニ罪科ヲ犯シ自ラ徵役ニ處セラレ服役中ニ在テ盜賊ト親密ノ約ヲ結ビ放免ノ後大ニ兇暴ノ業ヲ逞フスルノ事有リ故ニ其莫逆ナル盜賊ガ放免セラル、ノ日ハ衣服ヲ賣ラシテコレヲ途ニ迎ヒ自宅へ引連レ歸リ大ニ響應スルヲ以テ常トスト。或ヒハ然ラソ

下等者ガ住スル所ハ多クハ裏店ウラダナニシテ陽オモテニハ屑屋フルギヤ故衣商
 等ヲ營ム者有リ然レモ上等者所謂問屋オモテニ至テハ立派ナル
 街衢ニ住シ巍々乎タル家屋ヲ構ヒ堂々然タル商人類ヲ呈
 スルヲ以テ人其ノ「ケイツ」買タルヲ知ル者ナシ其懸隔ヘダ、ヒナ月籠
 音ネナラズト云フ均シク是レ惡業者ナリ而シテ貧富相分ル
 、斯ノ如キモノハ蓋シ亦タ其系圖ノ良否ニ因ルモノ乎
 此輩ガ賊物ヲ賣捌クノ神速ナルト巧妙ナルトハ實ニ驚ク
 べき程ニテ朝ニ得ル所ハ夕ニ乾々一物ヲ存セズト云フ又
 或ハ得ル所ノ品物ハ其紀標トナルベキモノヲ悉ク削去
 リ或ハ抹却ヌルシテ失者ウシナヒヲシテ輒ク發見シ得ザラシメ或ヒ

ハ其形狀ヲ變換シテ賣却スルコト有リ白衣ハ染メテ黒袍ト
 ナシ羽織ハ變シテ上衣トナシ其證據ヲ得ザラシム金屬ノ
 如キニ至テハコレヲ鍋中ニ投シ烈火ヲ以テ溶解シテ四方
 ニ輸送スト云フ嘗テ一婦人有リ前夜盜兒ノ爲メニ羽織ヲ
 奪ヒ去ラル翌朝偶マ故衣商舖フルギヤヲ過グルコ鮮黒ナル頭巾ヲ
 店頭ニ曝サラスヲ見ル心ニコレヲ得ント欲シ終ニ價ヲ定メ買
 得テ還ル居ルコト二三日ニシテ頭巾ノ裏ニ一紀章有ルヲ認
 ム諦視ズルニ我が家ノ紀章ト同シ大ニコレヲ怪シ熟檢ス
 ルニ何ゾ料カカラン先夜盜ミ去ラレタルノ羽織ヲ仕立直シタ
 ルモノナレバ覺エズ一驚ヲ喫シタリト云フ

近來警察ノ嚴正ナル此輩漸ク跡ヲ都下ニ收ムト雖モ猶ホ
 往々賤策ヲ行フノ事ハ新聞紙上ニ記スルヲ絶タズ其公意
 ナ畏レズ法律ヲ輕ンズルノ罪愆ムコ尙ホ餘リ有リ右ニ揭
 グル所ハ吾輩ガ傳聞スル所ノマ、ヲ記スルモノナレハ一
 二誤謬無キヲ保セズト雖モ記シテ以テ讀者ニ報ス

○第四章 女學生

甲乙二女相伴テ街頭ヲ行過ス甲願テ曰ク君今夜僕ノ所ニ
 來給キタマヘ（女ニシテ僕ト稱）乙答ヘテ曰ク何カ愉快ナル事有ル
 カ曰ク晚酌ヲ開クベシ曰ク妙々午後六時ヲ期シテ至ラシ
 若シ約ヲ履マザレハ罰金ヲ償フベシト是レ吾輩ガ嘗テ街

衢ヲ徘徊スルニアタリ聞ク所ノ女學生ノ行話ナリ是レ豈
 ニ婦女ノ口氣ナランヤ吾輩ハ今ノ女學生等ガ往々疎褻ヲ
 以テ開化トシ傲慢ヲ以テ婦徳トナスノ一大怪事ニ至テハ
 實ニ驚カザルヲ得ザルナリ

聞ク客歲ノ秋女生三四名相伴テ新橋ノ牛肉舗ニ登リ酒ヲ
 呼ビ肉ヲ食ヒ醉步蹣跚トシテ街頭ヲ彷徨シ車夫ヲ呼テ曰
 シヤリ（車夫ノ符帳）ヲ以テ車ヲ筋違（地名）マテ遣ルベシト車夫
 價ヲ増サシテ乞フ應答數回遂ニ爭鬪ヲ起シ巴御前ノ粟
 津ニ戰ヒ板額ノ門戸ヲ排シ「ヤヤ」ノ孤城ヲ救フガ
 如キノ勢ヒコテ車夫ヲ亂打シテ逃去レリト又聞ク某校ノ

女生營ヲ暑中ノ休暇ニ際シ數名相供ニ箱根ノ温泉ニ浴シ
 數百金ヲ浪費シ父兄ノ名ヲ累ハシタルガ如キハ實ニ一奇
 聞ト謂ハザルベカラズ是ヲシモ女權ノ伸張ナリト稱セバ
 裏店ノ播盆播木ノ戰鬪モ亦ヲ女權ノ振ヘルモノト賞讃セ
 ザルヲ得ザルナリ豈ニ嘆セザルベケンヤ

○第五章 開業式

數百ノ球灯網渡リシテ虚空ニ連リ檐頭又々挿ムニ數十ノ
 紅灯ヲ以テシ幅廣ナル祝旗ハ懸懸トシテ大層ヲシテ入口
 ニヒラメキ西洋風ノ綠門ハ田舎ノ村社ノ華表ヨリ大キク
 積樽ハ貧乏酒屋ノ身代限ニ似タリ紺地ニ徽号ヲ染出シタ
ツギムル

ル半天ヲ被タル丁男數十名入口ノ左右ニ列シ社員ハ黒縮
 緬ノ羽織(或ハ木)ヲ被リ仙臺平ノ袴ヲ瓦破々々平トシテ
 穿ツ(木綿袴ノ如キハ其)社長閣下ニ至テハ金時器ヲ胸邊ニ
 耀カシ玉環ヲ指間ニ照ラス其衣ノ華其服ノ美又推シテ知
 ルベキナリ是レ近來專ラ流行ノ開業式ノ光景ナリ凡ソ近
 來都下ニ於テ一商社ヲ開キ一工業ヲ創スル毎ニ必ラズ開
 業式ヲ行ハザルナシ其來客ノ夥キ入費ノ大ナルマタ實ニ
 驚カザルヲ得ザルナリ客歲創建ノ某社ノ如キハ一千餘圓
 ナ費シ會宴五日ニ連リタリト亦盛シナラズヤ
 開業式ニ招ク所ノ客ハ都下有名ナル紳士巨商及ビ新聞記
オホアキヒト

者等ヲ多シトス然レドモ有識ノ士ニ至テハ其雜香ヲ厭ヒ
 或ハ出席ヲ肯セザル者アリ斯ノ如キハ社長開式前ニ屢々
 其家ヲ訪ヒ百方懇請シテ出シテ求メテ已マズト云フ過
 リ閉口シテ馳走ヲ食テ貰フ開業式モ亦奇ナリトイフベシ
 資本金充備セズ將來維持ノ目途立タザルノ商社トイヘド
 モ先ヅ開業式ダケハ立派コスベシトノ計ヲ以テ盛大ノ式
 ナ舉ゲ入費償フ能ハズシテ終ニ全社瓦解スル者アリ嘗テ
 行險者有リ數名相謀テ一社ヲ京橋邊ニ設シ其開業式ノ隆
 且ツ大ナルハ一時新聞紙上ニ喧傳シテ都人ノ耳ヲ驚カセ
 リ然レドモ素ヨリ一文ノ資金ヲ有セザル山事ナレバ當日

費ス所ノ債ヲ償フ能ハズ藝妓ハ其華價ヲ促リ酒屋ハ其債
 ナ迫リテ已マズ社員辭謝スルニ由ナク終ニ四五脚ノ椅子
 二三個ノ洋机トチ置去リニシテ狐鼠々々然トシテ烟ノ如
 シ霧ノ如ク消散セリト云フ

藝妓ト祝文ハ開業式ニ於テ欠クベカラザル大要用ノ物ナ
 ルニ似タリ如何ナル毛痴ナル開業トイヘドモ必ラズ數名
 ノ藝妓ヲ聘シ二三篇ノ祝文有ラザルナシ况ンヤ其盛大ナ
 ル者ヲヤ聞ク新柳二橋有名ナル藝妓ニ至テハ少クトモ月
 ニ五六回開業式ノ席ニ招カレザルナク其華價ハ常ニ月入
 豫算表ニ當込ニ有リト又筆豆ナル文人記者ノ如キハ四方

ヨリ依頼サル、祝文ノ代作ヲ少クトモ月ニ五六篇ヲ草セザルコトナシ故ニ某記者ノ如キハ屢々同体ナル文ヲ草スル事ノ煩^{ワルサキ}ナルヲ厭ヒ嘗テ一篇ヲ草シ置キ儘カニ社名人名等ノ字ヲ入^イ替^カテ與フルト云フ祝文ノ流行亦タ驚クベキ哉一生有リ嘗テ開業式ニ招^マ請^カセラル蓋シ私立病院ノ開業ナリ院主頻リニ生ニ祝文ヲ作ラシコトヲ請テ已マズ生^セ諾^トス當日衆稍ヤ集リ坐ニ着クニ方リ生起テ祝文ヲ朗讀ス院主以^{オモ}謂^ハラク祝文ノコトナレバ定メテ例ノ斯ノ院ノ益々隆盛ナラシコトヲ祈ルトカ或ヒハ嗚呼盛ナル哉トカ作レルナルベシト想^{オモ}ヒノ外生朗讀シテ曰ク病ハ人生ノ災厄ナリ人々孰^タレ

カコレヲ憎マザランコレヲ避ケザラン今病院ハ斯ノ災厄ヲ引受クルノ場所タレバ不祥コレヨリ大ナルハ無シ吾輩ハ切ニ望ム世人ノ速ニ災厄ヲ免レテ斯院ノ衰亡ニ趣カンコト彼ノ盛大ノ如キハ決シテ斯院ニ望ム所コアラザルナリト衆皆ナ愕然^{オドロク}タリ事頗ル暴激ニ涉^ワルトイヘドモ彼ノ過賞^コ實ニ超^コユルガ如キ佞文ト亦タ日ヲ同フシテ語ルベカラズ

華^シ麗^シ室ニ充チテ春花ヨリ麗ニ銀燭夜ヲ照シテ白日ヨリ明^キラカナリ爛々燦々煌々輝々人目ヲ眩シ客魂ヲ拔ク衆皆整然トシテ坐ス杯未ダ廻ラズ肴未ダ箸^ハセズ會主起テ衆客ヲ

拜一拜シ懷中ヨリ祝文ヲ取出シ朗讀シテ曰ク(朗ノ一字ヲ許スベキヤ)否(天レ工業ハ富國強兵ノ道ナリ)(新論)工業學ヲザレハ國富マズ兵強カラズ(拍手)文頗ル長シ客皆ナ胸裏以謂ラク無用ノ事ヲ休メヨ何ツ速ニ酒ニ有附セザルト會主爭テカコレヲ知ラシ(嚴冬汗ヲ滴リ聲ヲ助ケテ讀ム讀テ是レ吾輩ノ此社ヲ開ク所以ナリ)謹テコレヲ諸君ニ告グ云爾ト云フヨ至リ衆始メテ安堵ノ思ヒヲナシ方ニ箸ヲ下サントス何ツ圖ラシ物好千萬ナル一客有リ衆中ヨリ飛出シテ會主ニ面シテ一拜ス(一前坐己ニ下リ)鳥喙三尺咳一咳說出シテ曰ク予ハ會主ノ祝文ニ答ヘ來客諸員ニ代リ一演說ヲ爲サントス

(既)代人ト稱ス(謹)テ(喃々喋々辨テ費ス)凡ソ五十分此ニ至テ衆皆ナ欠伸ニ堪ヘス遂ニ倦困坐睡スルノミ耳邊唯ダ喃々ノ聲ヲ聞ク久フシテ氣蘇シ視一視スレバ則チ演說先生己ニ退ギタリ是ニ於テ喜色面ニ溢レ欣然トシテ杯ヲ把ル既ニシテ酒湧キ肴積ミ也タ飲ミ也タ食ヒ也タ啜リ也タ吐ク興稍ヤ(酩酊)ナラシトスルニ臨ミ鼓俄ニ響キ絃聲大ニ起ル(此)所小便無用甚句活(數名ノ校書治容艶粧錦衣ヲ連テ織帶ヲ駢ベテ舞蹈ス曲ニ云ク)
紅葉の橋の袂から袖を垣根のこどづけにちよつと耳を
バ鵲の霜のふつしか白くど積る程なほ深くなる雪を

廻らそ舞の手や

但レ是レ細腰徐ク舞テ態態簾前ノ柳ヲ欺キ花顔巧ニ媚ビテ
美美欄外ノ花ヲ差カシム衆始メテ睡ノ醒ルヲ覺エ一齊手ヲ
拍ヲ妙ト稱ス喝采ノ聲又天地ヲ驚動シ來ル

○第六章 自稱紳士

紳士ノ號ハ蓋シ近來流行ノ一物ニシテ英語所謂「マエント
ルメン」ノ義ナリコレヲ分テ眞正紳士、自稱紳士ノ二種ト爲
ス自稱紳士トハ他人ヨリ此ノ號ヲ下セルニアラズシテ自
ラ紳士ヲ氣取リ常コ口ヲ開ケハ輒チ曰ク吾輩ハ苟モ東京
ノ紳士ナリト傲然人コ語テ差ルナキモノナ云フナリ都下

ニ於テ眞正紳士ノ號ヲ下スベキノ者ハ蓋シ四五名ニ過ギ
ズ餘ハ悉ク自稱紳士連中ノミ
自稱紳士ハ家産ヲ有スルガ如キ体ヲ粧フトイヘドモ其内
情ヲ探グルトキハ只マ巧ミコ一時金銀ヲ流通スルノ術ニ
長シタルマデコシテ其有金ト負債トヲ差引勘定ヲ立ルト
キハ數万ノ不足ヲ生ズルノ輩ヲ多シトス故コ昨日マデ嚴
然紳士ノ顔ヲ張リ領以テ人ヲ使ヒ尻以テ客ヲ敷キシモ今
日ハ忽チ化シテ濫ヲ扇サヘ持タザル窮鬼ト爲テ形ヲ隱シ
影ヲ晦マス等ハ比々トシテ見ル所ナリ或ル人曰ク紳古ヘ
申ト通ズ訓通ズ猿ト蓋シ自稱紳士輩ガ猿猴申ノ人ヲ學ブガ

如キヲ謂フナリト亦以テ一笑話ニ供スベシ
 不品行ハ此輩ノ通慣ニシテ絶エテ願ミザルモノ、如シ率
 子閨門修マラズ一妻數妾尙ホ以テ足レリトセズ外宅ニ權
 ナ蓄ヒ新道ニ妓ヲ圍ヒ老月梅花ヲ照ラシ古木芳草ヲ壓シ
 常ニ少年子弟ヲシテ酸鼻ニ堪ヘザラシム（何ラツ少年ニ割與
ルザ）而シテ此輩ハ是等ノ醜事ヲ以テ敢ヘテ耻トセズ動モス
 レバ人ニ告テ曰ク頃日ハ妾宅ニ在レバ請フ少ク枉駕セヨ
 ト諺ニ云クハハチハガトオモハチハハガナン不耻可耻則無耻ト蓋シ是等ノ謂ヒ乎

○第七章 金貸

凡ソ金貸ヲ分テ三等トス曰ク大金ヲ巨家名族等ニ貸付ル

者曰ク五十圓以上一二百圓迄ハ小商賈或ハ薄俸者等ニ
 貸スモノ曰ク十錢以上十圓以下ヲ貧困者ニ貸スモノ是レ
 ナリ凡ソ此輩ガ常ニ非常ノ高利ヲ貪リテ負債者ヲシテ慘
 狀ニ陷レシムルモンハ實ニ慨嘆ニ堪ヘザルモノトス
 公然格外ナル高利ヲ貪ルガ如キハ蓋シ法律ノ免サドル所
 ナレバ此輩ハ巧ニ點策ヲ施シ姦策ヲ接シ或ヒハ手数料ト
 稱シ或ヒハ天利ト號シテ貪リ取ルヲ以テ常トス其等差一
 ナラズト雖モ大抵手数料ハ一割（即チ一十百圓）天利ハ五圓一
 歩或ヒハ十圓一歩ヲ割テ以テ貸與フルノ初メニ於テ引去
 ルヲ例トス（假令ハ五圓一歩ハ則チ三圓ヲ引去リ現金七圓

(貸)若シ貧困ニシテ家産無キモノニ貸ストキハ假リコ其
 家財雜品ヲ買ヒ取リタルモノト做シ負債者ヨリ家財借用
 証ヲ入レシメ高利ヲ食ルノコト有リ萬一負債者が期限ニ至
 リ償フコト能ハザレバ遠慮會釋モ無シ其家財ヲ運搬シ去ル
 然レドモ負債者ハ一タビ賣渡シタル体ニ爲シタルコトナレ
 バ奈何トモスルコト能ハズ遂ニ切齒シテ己ムト云フ
 貸金ニ日歩ト稱スル有リ十圓或ヒハ五圓等ノ小金ヲ貸シ
 置キ日コ一步ヲ取立テ數ノ滿ルニ至テ己ム(利子ハ即チ天
 去引)又烏金ト稱スル有リ一圓前後ノ金(十甚シキハ)ヲ貸シ價
 キ毎朝負債者ノ家ニ至リ一錢ソバチ收ム(是亦ニタ利子ハ)風

雨寒暑トイヘドモ必ラズ抵ラザルコトナク促ラザルコトナシ
 猶ホ毎曉天明クレバ鳥ノ鳴カザルコト無キガ如キヲ以テ此
 稱チ下セルナリト凡ソ是等ノ金ヲ借ルノ貧人ハ終日勞苦
 シテ得ル所ノ傭工錢或ヒハ商利ノ如キモ多クハ金貸ノ爲
 タニ攫取セラレ終身貧困ノ域チ脱スルコト能ハズト云フ亦
 タ憐ムベキナラズヤ
 右等ノ如キ小金ヲ貸附ルハ蓋シ寡婦老婆等ノ生業ニシテ
 其資金ノ如キハ大抵上等ナル金貸家ヨリ引キ出シ來リテ
 貸出スチ多シトス此輩ノ貪婪殘酷ナル其顔色チ一見シテ
 知ルベシト云フ裏店陋巷ニ於テ往々烏婆某ノ異号ヲ受ク

ル者有リ是レ烏金ヲ貸ス。因テナリト烏婆乎々々吾輩
 其手ニ羅ラザルヲ用心セザルベカラザルナリ
 徹陋小住破窓紙古テ小屏風ヲ障ヘ傾軒瓦碎テ大盤雨ヲ受
 シ一老人沈痾未ダ起キズ雞骨瘦ヲナシテ亂髮蓬シ如シ呻
 吟無聊衾ヲ擁シテ坐下ス傍ヲ一少女有リ背ヲ撫シテ疾
 チ護ス少女至孝務メテ寒旨ヲ奉レ事終ニ江湖ニ傳聞シ噴
 ヲ賞美セラル偶々外邊人有リ戸ヲ推シテ入り老人ニ對シ
 テ道ヲ足下ノ事吾が社ノ新紙ニ載セタルニ四方ニ慈善者
 其窮乏ニ息女ノ至孝ナルヲ憐ミ本社ニ向テ惠送スル所
 金已ニ四圓五十錢ニ至レリ依テ本日之ヲ傳達ストニ包金

チ與フ父子歡善官ヲ所ヲ知ラズ只ダ默拜スルノニ僅カ
 シテ其姓名ヲ問フ曰ク我ハ某社ニ探訪者ナリト言放テ直
 ニ去ル父涙ヲ拭テ曰ク枯骨再ビ肉ニ斷絃復テ續ク千思万
 謝何ヲ以テコレヲ報ヒシ何レノ日カコレヲ償ハント言畢
 リテ復ダ泣ク戶外又入有リ慌忙上リ前ニ即チ別人ナラズ
 烏婆ナリ叫テ曰ク客月貸ス所ノ五圓已ニ期限ヲ過クレド
 モ病ニ托レテ未ダ償ハズ屢々督責スルモ糶ニ釘ヲ下スガ
 如シ今日ニ至テハ最早ニ刻ノ宥恕ヲ爲スベカラズ速ニ其
 衾ヲ渡セヨト起テコレヲ撤セシトス父子大ニ驚キ忙手コ
 レヲ止メテ拜謝ス婆奈何ヲ禁ク得シ老夫ヲ倒シ少女ヲ蹴

ル看ル時看ル傍ラニ紙幣有ルヲ婆急ニコレヲ收メテ曰ク
汝等が無道ナル金ヲ有スル斯ノ如シ而シテ返償セザルハ
盖シ借倒スノ了簡ナラン之ヲ收メテ去ルベシト父子号泣
血ヲ濺グモ何ゾ關セメ直ニ懷抱シ願ミズレテ去ル

○第八章 身代限

都下ニ於テ年々身代限ヲ爲ス者蓋シ一千人口下ヲザルセ
シ都人ガ斯ノ如ク身代限ノ處分ヲ受ルモノハ多キハ實ニ
窮困已ムヲ得ザルニ出ルモノ、如キハ蓋シ十中二三ニ過
ギズ人情浮薄廉耻漸ク地ヲ拂フヲ以テ若シキ金策ヲナシ
テ負債ヲ償ハンヨリハ寧ロ身代限ヲ出スノ心易キコ如カ

ザルナリトノ意ニテ處分ヲ受クルモノ多キコ居レリ斯ノ
如キ狡黠兇惡ノ徒ニ至テハ豫メ身代限ノ用意ヲナシ若シ
債主ヨリ訴へ出ルノキハ此ノ如クスベシトノ準備コテ密
ニ家具ヲ親友ノ家ニ運搬シ（充レドモ虚）或ヒハ地所建物等
ヲ有スル者ハ假リヨコレヲ親族ニ賣渡シタルノ屈ヲナシ
置キ（有レドモ無）身代限ノ處分ヲナスコ及デハ僅カニ低價
ナル古葛籠破鍋等ヲ差出シ是ヨリ外ニハ一物モ有セズト
陳謝スル如キハ往々聞ク所ナリ名譽ヲ棄テ廉恥ヲ破ルヲ
願ミザルノ惡漢ニ至テハ亦タ如何トモスベカラザルナリ
表店ヲ張リタル商賈ガ身代限ヲナスコ方テハ或ヒハ既ニ

家産ヲ他人ニ賣渡シタルモノト偽リ僅カナル品ヲ競賣シ
 テ債主ニ渡シ幾クモナク妻ヲ以テ戸主ノ名義トシ再ビ立
 派ナル商店ヲ開ク等有リ而シテ自身ハ後見人或ヒハ同居
 人ノ名義ニテ家事ヲ攪ルト云フ此ノ輩動モスレバ曰フ三
 又ビ身代限ヲナセバ倉庫ヲ築クニ足ルト蓋シ其餘麻有ル
 ナ謂フナリ嗚呼マタ沙汰ノ限ナル哉カキリ
 ○第九章 寄席
 都下至ル所寄席ノ招牌ヲ見ザルナク大抵四五町カキリニテ必
 ズ一所ヲ設ク號シテ某亭ト曰フ晝夜交番シテ伎ヲ演ス演ス
 ル所ハ曰ク演史曰ク落語曰ク手技曰ク義太夫曰ク清元曰

ク常磐津曰ク富本曰ク長唄曰ク綴人形曰ク影紙曰ク舞蹈
 曰ク茶番チヤバン戲曰ク八人藝等是レナリ其伎ヲ售ル十五日ヲ以
 テ限トナシ限盡キテ客寫減セザレバ又日ヲ延シ更ニ期ヲ
 引ク斯ノ如キハ必ラズ大入ニ付日延ト大書セル招牌ヲ掲
 グ大概樓ヲ用テ場ヲ開ク或モヒハ樓下ヲ用ユルアレ其ノ家
 ノ檐角ニ大籠カ招子ヲ懸ケ書スルニ伎人ノ名ヲ以テス夜分
 ハ之ニ火ヲ點ス肆端ニ一錢匣ヲ置キ匣上盤ヲ堆フス漢有
 リ側ニ坐シ叫聲ス請フ來レ々々々々ト壁間ニ桁ヲ設ケ履
 履ヲ連テ懸小ケ牌ヲ繫テ識トナシ又客ニ一小牌ヲ與フコ
 レヲ合符トイフ席價大概五錢五匣ヲ以テ常トス

場内正面ノ奥ニ當テ一高床ヲ設シ方六尺餘壁ニ懸クルコ
 帷ヲ以テス必ラズ亭號ヲ染ム或ヒハ伎人ノ賚モタラシ來ル者有
 リ是等ハ必ラズ大書シテ曰ク某丈ニ贈ル愛顧者ヒイキヨリト是
 レヲ伎人ノ坐トナヌ夜ハ則チ兩方ニ燭ヲ設シ客其下ニ席
 ヲ占メ（仰テ伎人ノ）坐ヲ争ヒ肩ヲ疊タカム席亭大ナルモノニ至
 テハ五六百人ヲ入ルベシト雖モ偏僻閑寂ノ地ニ至テハ僅
 カニ一百人ヲ容ルニ過ギズ其狹隘亦ヲ想フベシ一席ハ
 則チ職工火丁一席ハ則チ書生文人三々頸ヲ交ヘ五々臂ヒキヲ
 接ス驍士ノ膝ハ新道外妾ノ尻ニ觸レ（儉父ノ放屁ハ）良家愛
 嬢ノ鼻ヲ衝ツク炊婦ノ臀大ニシテ丁稚ノ地ヲ侵略シ隱居ノ

頸長シシテ小童ノ眼ヲ障サフ手代ヤ番頭ヤ車夫ヤ馬丁ヤ私
 窠子ヤ曳ヒキ婆ヲヤ男女雜居シ貴賤位ヲ同フス然レドモ寄席マ
 喜ブモノハ多クハ職工傭夫等シキトシニシテ高帽華衣ノ客ノ如キ
 ハ僅ニコレ有ルノミ而シテ寄席ノ都下ニ於テ斯ノ如ク勢
 頗ホチ逞チナルハ是レ其ノ直低キト晝間ハ職業繁劇ノ徒ガ
 纔ニ夜間ノ閑スチ偷ヌスミテ群集スルトニ因レリ
 日方ニ落チ灯燭火ヲ上ス一人有リ床ニ上リ伎ヲ演スコレ
 ナ前坐ト曰フ前坐已ニ退キ數人相繼グ伎甚ダ妙ナラズ己
 ニシテ一人有リ稍ヤ觀ルベク聽クベク人ヲシテ漸ク佳興カキヤウ
 ニ入ラシム伎畢テ退クコソチ中入ト曰フ是ニ於テ便セリチ忍

プ者ハ圃ニ如キ渴スル者ハ茶ヲ呼フ場内又菓子ト鮮トナ
 賣ル菓子ハ甚カハクマ酸シ早ク見ル巨魁ノ坐ニ上ルヲ是レヲ眞
 打ト曰フ伎更ニ妙ニ更ニ奇ナリ人ヲシテ手ヲ拍テ快ト呼
 ハシム是ニ於テ場内客皆喧嘩雜沓レテ去ル
 場内時トシテハ或ハ少年男女ノ衆ヲ避テ片隅ニ耦坐シ手ヲ
 疊ニ頸ヲ交ヘテ喃々トシテ語り呶々トシテ嘖クテ見ル是等ノ
 男女ハ決シテ伎ヲ聞キ藝ヲ觀ルガ爲メニ來レルニアラズ密
 ニ場内ニ於テ會セシメテ約シ來ルモノコト場未ダ閉ギザ
 ルニ談己ニ熟シ手ヲ携ヘテ相去ル果シテ何レノ所ニ赴ク
 ヤ得テ知ルニカラズ故ニ寄席内ニ於テハ久松モお染ノ袖

才ヒ史キ易ヤスク長右衛門モお半ト語ヲ接スルニ便ナリ良家ノ
 父兄ハ往々コレヲ知ルガ故ニ容易ニ子女ノ寄席ニ赴クヲ
 許サズト云フ

四漢有リ寄席ヨリ還ル一人有リ問テ曰ク出物ハ何ナリヤ
(俗ニ伎人ナ)甲曰ク娘淨瑠璃ナリ又問フ曲名ハ如何甲知ラ

ズト答フ乙ニ問フ乙曰ク曲名ノ如キハ余ガ問ハザル所ナ
 リ唯ダ其巧拙ヲ知ルノミ又問フ然ラバ則チ巧ナリヤ果シ
 テ拙ナリヤ應答分明ナラズ丙ニ問フ丙曰ク余ガ如キハ耳
 ヲ賤ニ目ヲ貴ム故ニ唯ダ其容貌ノ美醜ヲ觀ルノミト又丙
 ニ向テ美醜ヲ叩ク丙曰ク美醜何ゾ關セシ余ハ一二眼ヲ腰

帯ノ間ニ注グノミト問者愕然タリ
○第九章 拘摸

拘摸モ亦東京ノ一名物ナリ凡ソ劇街繁衢至ル所徘徊セザ
ルキク彷徨セザルナシ常ニ三四ノ黨與ト連合シテ過ソバ
必ラズ金錢若クハ高價ノ貨物ヲ掠奪セザルナシ故ニ信
父田漢ハ論ナク都人ト雖モ常ニ此輩ノ爲メニ貨物ヲ奪ハ
ルノ事多シ
江戸繁昌記ニ嘗テ拘摸ノ種類ヲ記シテ曰ク其ノ乃チ使テ
佩テ剪ルヲ巾着剪トイヒ空手向ニ進ミ衣中ノ物ヲ抽ク
コレチ違トイフ按スルニ伎チ違行ノ際ニ施セバナリ初メ

人ノ後ニ立テコレチ伺ヒ遂ニ繞テ前ニ出ヅ手ヲ其間ニ下
スコレチ立トイフ大抵甲剪ヲ乙ニ傳ヘ丙抽テ丁ニ送ル相
助テコレチ爲ス乃チ或ヒハ其人ヲ獲ルモ物ハ則チ己ニ逃
レ倒テコレガ罵リヲ受ク或ヒハ一人コレヲ掠メ走ルチコ
レチ飛トイフ其飛走スルチ以テナリ刀ヲ揮テ却シ奪フヲ
コレヲ度須トイフ按スルニ國語恒チ媼度須ト訓ス即チ其
ノ器ニシテ恒奪スルチ以テナリ且ツ其ノ隱語紙ヲ楂志ト
曰ヒ夾袋ヲ大トイヒ腰袋ヲ茄子トイヒ烟管ヲ鉄砲トイヒ
又伽追豐馬トイフ按スルニ楂志トハ楂志發沙夢ノ略コレ
ヲ懷抱ニ夾ムナリ大トハ受用ノ大ナルチ以テナリ茄子鉄

炮カダチハ象ヲ以テコレヲ言フ而シテ伽追豐禹トハ偽ヲ其音ヲ
 謬轉スルナリト靜軒居士コレヲ記スル天保七年ニ在リ今
 ナ距離ルヲ殆ンド四十有餘年前ナリ今猶ホ名稱ヲ同フスル
 ヤ否イ謹テ博識先生ニ問フ
 嘗テ檐暴雜記ヲ讀ムニ云ク都門繁會ノ地偷子拐子意計ノ
 及ブ所コアラザルモノ有リ云々一少年銀ヲ以テ錢ヲ市ニ
 易カフ方ニ價ヲ諧トフ忽チ一老者アリ後ヨリ擊ヲコレヲ仆タス
 且ツ罵テ曰ク父ノ窮ヒンケ此ニ至ル兒錢有リ乃チ私ニ錢ニ易カフ
 不孝孰イレカコレヨリ甚シキアラント遂ニ銀ヲ奪テ去ル旁
 觀者謂オモヘラク是レ父ノ子ヲ賣ムルナリト少年悶絕ヤヒヒサ良久シ始

メテ甦キカツクス曰ク吾安イソクンゾ父有ルヲ得ン而モ銀已ニ去ル追フ
 ベカラズト又利刃トキハモノヲ雜稠人中ニ藏スル有テ腰間ノ雜佩ヲ
 剪キリ取り或ヒハ衣襟一幅ヲ割サキ去ルニ至ル混號アダナコレヲ小
 李トイフ剪キラル、者覺テコレヲ獲ウル毆辱ウレチヤンヲ加フトイヘド
 モ怨ミズ或ハ旁人ハタノヒト指破スレバ則チ必ラズ報ズ女郎有リ香
 車ニ坐ス一書生其ノ傍ヲ行ク兩美相顧テ情有リ小李ナル
 者書生ノ後ヤシロニ伺ウカヒ將マコ手ヲ下サントス書生知ラザルナリ
 女郎語ルコ便ベシナラズ但タ口類クチウキヲ以テ隱ヒツカニ人ノ後ヘニ伺
 フ者有ルガゴトキチ示ス書生覺サトツテコレヲ斥シク小李遂ニ去
 ル未ダ幾クナラズシテ車曲巷ニ轉ズ女郎ノ口忽チ小刀ニ

割破セラレタリト彼此相似タルノ甚シキモノト謂フベシ
 嘗テ淺草ニ於テ書畫ヲ揮テ業ト爲ス者有リ軒前觀ル者塔
 ノ如シ一婦人有リ將ニ拐子ノ爲メニ金釵ヲ奪ハレントス
 生眼ヲ以テコレヲ示ス拐子遂ニ業ヲ逞フスルヲ得ズシテ
 去ル黃昏ニ至リ白紙ビレヲ包ミ生ノ面ニ向テ投シ去ルモノ
 有リ是レ拐子ガ密ニ報ズルナリト云フ

東京穴探二篇 畢

明治十四年十一月十五日出版御届
 同 年一月十八日發行

〔三十錢〕

著述者 松村操

神田區佐久間町
 二丁目十一番地

出版者 東京府平民 望月

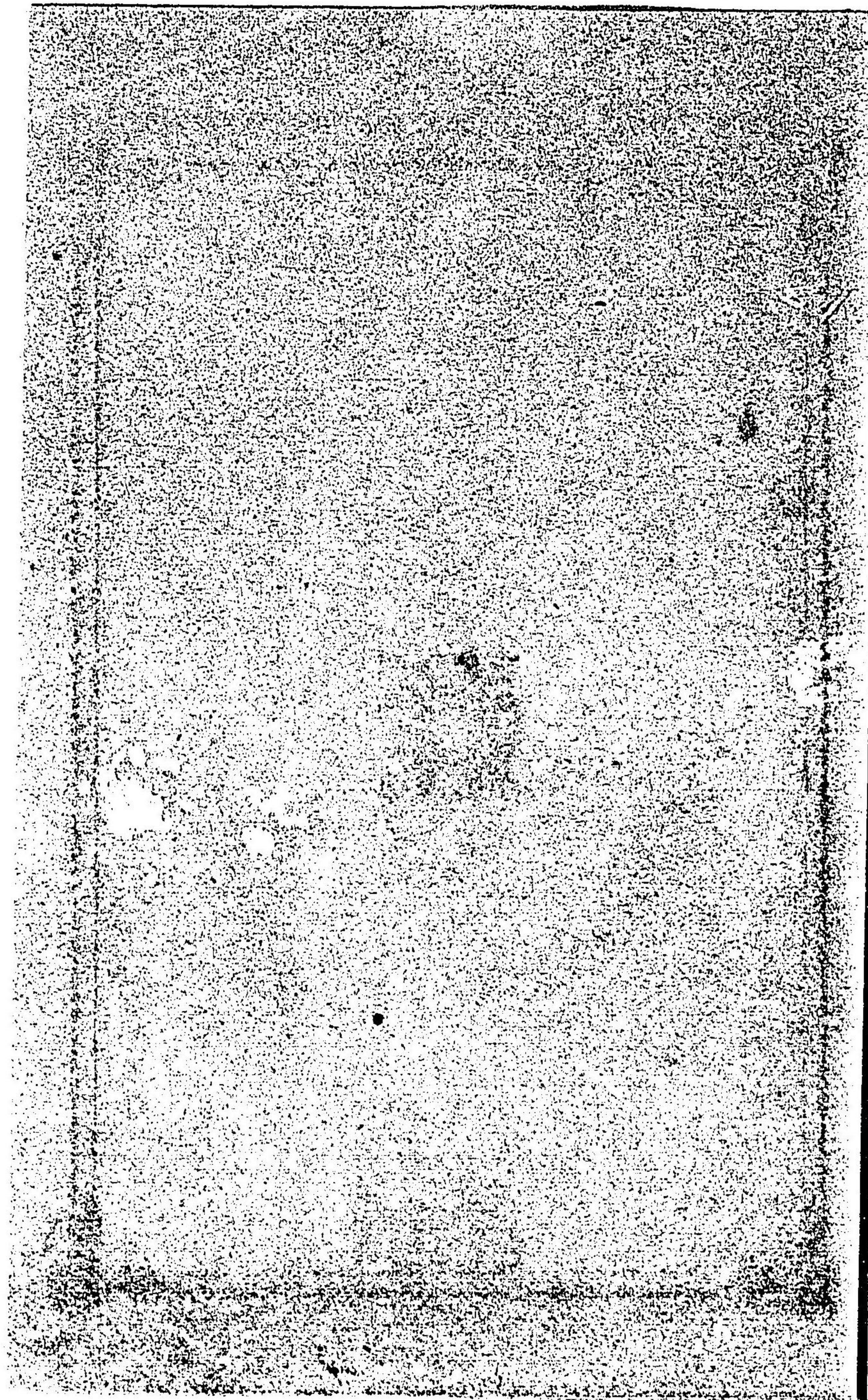
京橋區南鍋町
 丁目七番地



發兌元 東京南鍋町一丁目七番地 兔屋 誠

大賣捌所 大阪唐物町三丁目五番地 同 支 店

同 東京芝三島町 山中市兵衛



松村操編著

東京穴探
三篇

明治十四年
一月發行
思誠堂藏版



東京穴探三篇

松村操編著

第一章

著述者
出版

試ニ各新聞紙廣告ノ部ヲ觀ルニ新著ノ出版其五分ヲ占
メ賣藥其四分ヲ領シ其餘ノ件ハ僅カニ其一分ヲ填ムルニ

過ギザルガ如シ近來新著出版ノ夥キ亦以テ慶スベキナリ



廣告ノ文ニハ必ズ曰ク宇宙無比ノ珍書ナリ曰ク
志スノ士ハ必讀スベキノ良書ナリト人一タビコ
ハ必ズ其吹方ニ驚カサレ先ヅ購讀スベカラズ
讀スルニ及テハ大抵其ノ書ノ疎漏杜撰ナル亦

ヲ驚クベキ程ニテ或ハ法書ニシテ法律ノ何物タルヲ知ラ
ズ翻譯書ニシテ原文ト全ク齟齬セル有リ往々人ヲシテ一
讀頭痛ヲ起サシメ嘔吐ヲ催サシムルニ至ル是ニ於テ讀者
ハ忍テコレヲ抛チ去リテ竊カニ其定價數圓ヲ奪ヒ取ラレ
タルヲ嘆ズト云フ著書ノ多キ出版ノ夥キ悉ク此ノ如クナ
リトイフニハアラザレドモ(諸大先生有用ノ著書ノ如クナ
キハ此ノ外ニ御座レ)是レ
近來普通出版書ノ情況ナリ亦々嘆ズベキニアラズヤ
維新以降出版ノ書ヲ分テ二段トナスベシ第一段ハ戊辰
リ癸酉ノ頃マデハ専ラ翻譯書ニ止リ(是モ多クハ)甲戌ヨリ
以降ハ纂輯書ヲ多シトス(經ヲ纂輯ト問フ則竊ト然レドモ其書

十卷以上ニ出ルガ如キハ蓋シ百中一二ニ過ギズ多クハ僅
々一二冊ニ止リ全ク編者ノ一夜液ニ成ルモノナリ之ヲ問
ヘハ輒チ曰ク古人一部ノ書ヲ編ム二十年ノ歲月ヲ費シ
ルガ如キハ其思想痴愚ニシテ筆鈍キガ爲メナリト豈ニ古
人ノ筆ヲ鈍シトセンヤ唯々其思ノ干シヲ恐ル故ニ急遽
一書ヲ成スノ(傍ラ人有リ問テ曰ク足下此ノ書ノ如
キハ如何記者答ヘズ顧テ他ヲ言フ)如
書肆店頭主人烟ヲ吹テ眼ヲ丁稚ノ舉動ニ注ギ遠國へ輸送
スルノ書籍ヲ指揮ス一書生有リ羽織ハ長ク足駄ハ高シ突
然入り來テ搥頭ス主人曰ク爾後契潤近况何如書生曰ク異
狀ナシ々々々々主人曰ク新著無キヤ書生日ク有リ々々々

日乃チコレヲ謀ラシガ爲メニ來レハナリト袂包ヲ開テ一
 書ヲ示ス主人一閱シテ曰ク閨房秘曲説ト眉ヲ蹙メテ道フ
 助兵衛本ノ如キハ近來大ニ聲價ヲ下セリ蓋シ世人ノ讀
 厭キタルモノナルベシ且ツコレヲ某先生ニ聞ク曰ク人間
 造化ノ妙ニ托シテ閨房狎戯ノ事ヲ陳スルガ如キハ深ク道
 徳上ニ於テ取ラザル所ナリト謹テコレヲ返上ス去テ他ニ
 問ヘト書生曰ク然ルガ如キハ別ニ一書有リト再ヒ袂包ヨ
 リ一小冊ヲ出ス主人コレヲ開クニ題シテ民權伸張論トイ
 フ急コレヲ抛テ曰ク暴言恐ルベク激論惡ムベシ民權ニ
 由テ妄進過激ノ論ヲ吐キ自由ニ付シテ時事ヲ誹謗シ世上

暴安ノ細人ヲ喜ハスガ如キハ吾ガ敢ヘテセザル所ナリ
 コレヲ此書ノ如キモ望ミナク々々々々ト書生恠怩トシ
 テコレヲ収メ最後一書ヲ出ス主人標題ヲ讀下シテ曰ク明
 治記事本末此書ノ如キハ頗ル穩當ニ近シト書中ニ翻一翻
 シテ道ヲ休裁ハ大ニ整ヘルニ似タレドモ足種ノ書ハ極メ
 キ夥シ故ニ一時ニ賣盡スベカラザルニ似タリ原稿潤筆料
 廉ナラバ申シ受クセシト書生始メテ愁眉ヲ開テ道フ近來
 潤筆料非常ニ低下セルハ吾輩モ亦タ知ルトコロナリ一枚
 五十錢ナラバ賣ルベシ主人肚裏目算シテ道フ客甚ダ窮ス
 ルニ似タリコレヲ子ギルニ如カズト故意氣ノ無キ顔色ヲ

此入

呈シテ曰ク五十錢ハ頗ル不廉トス三十錢ニ輸ケヨ尙シ尊
 意ニ滿タズンハ奈何トモスルナシト問答數回遂ニ價ヲ三
 十五錢ニ定ム主人道ヲ書中記事半枚ニ滿タザルモノ頗ル
 多シ是等ハお供ニ計フベシト遂ニ紙數ニ應レテ十餘金ヲ
 與フ書生欣々コレヲ収メテ去ル

第二章 賣淫者

府下ノ賣淫婦女ヲ分テ二種トス一ヲ娼妓ト曰フ公許ヲ得
 テ其淫ヲ賣ルモノナリニテ私窩子ト曰フ公律ヲ犯シテ其
 淫ヲ密賣スルモノナリ今二種ヲ區別シテ記載スベシ

(一) 娼妓

府下ノ遊郭ヲ二所トナス曰ク新吉原曰ク根津コレニ品川、
 新宿、千住、板橋ノ四驛ヲ加ヘテ六所トス娼妓ノコレニ居ル
 モノ新吉原ヲ以テ尤モ多シトナシ根津コレニ繼グ其數ヲ
 合計スルトキハ無慮三千人以上トス而シテ其一夜ノ情價
 ハ新吉原ニ於テハ八十七錢五厘ヲ以テ最上トシ二十錢ヲ
 以テ最下トス根津ハ五十錢ヲ以テ最上トシ二十錢ヲ最下
 トス、品川ハ六十錢新宿ハ五十錢ヲ上トシ千住板橋ハコレ
 ニ一步ヲ讓レリ情價ノ如キハ此ノ如ク高キモ一圓ニ上ラ
 ザレドモコレニ酒食纏頭等ノ雜費及ヒ娼妓ノ請求金ヲ合
 計スルハ大抵一月ニ付キ新吉原ノミヘ落ル金ニテモ五

六万圓ニ上ルト云フ若シコレニ自餘ノ五所ヲ加ヘハ無慮
 十數万圓ニ及ブベレ世上情痴者ノ夥多ナル亦タ驚クベキ
 カナ
 此ノ如ク娼郭チ六所ニ區別ストイヘドモ娼妓ノ情况ノ如
 キハ何レモ大同小異カレバ今專ラ新吉原ノ光景ヲ記スセ
 ン餘ハ推測スルヲ要ス
 新吉原ニ於テハ娼家ヲ區別シテ四等トス第一ヲ大見世ト
 稱ス往時コレヲ大籠ト號ス目今此稱ヲ受クルモノチ六家
 トス此レニ居ルノ娼妓ハ閨房及ビ次ノ間ト臺所ノ如キ部
 屋トノ三室ヲ有レ酒器飯具ヲ備ヘ琴棋書画等ヲ飾レリ(敢ヘ
 テ琴

棋ヲ弄シ書畫ヲ娛ムニア)而シテ侍婢所謂雇新造ノ使令ニ
 供スルモノ三四名アリ縱令負債山ノ如ク首ヲ廻ラヌベカ
 ラズト雖モ初會ノ客等ニハ厭ク其内幕ヲ洞ルヲ得ザラシ
 ム然レドモ其内情ヲ伺フキハ却テ下等ノ娼妓ヨリハ一
 層非常ノ窮困ヲ極ムルモノアリトイフ第二チ中見世ト稱
 ス往時コレチ半籠ト號ス目今此ノ稱ヲ受クルモノチ七家
 トス此レニ居ルノ娼妓ハ硝ヤ一着チ大見世ニ讓ルトイヘ
 ドモ皆チ閨房チ有シ新造チ役シ縱令下駄箱紙屑籠ノ代理
 チナストモ梧桐箆等一二個ヲ飾リ衣服モ亦チ甚ダ陋ナラ
 ズ其容貌ニ至テハ往々大見世ニ勝ルモノ有リト云フ(小國

畏ルベカラズ大國(第三)並見世ト稱ス往時所謂惣半籬是レナ
 リ目今此ノ稱ヲ受ルモノチ八家トスコレニ居ルノ娼妓ハ
 情價僅ニ二十五錢ナレバ其卑陋ナルモ亦想フベキナリ第
 四チ下見世ト稱ス俗ニコレヲ惡店ト號ス長家(局店或ハ切
 亦コレニ附ス此レニ居ルノ娼妓ハ極メテ卑陋ナルノミナ
 ラズ問房チ有セズ夜食ノ薄キ煎餅チ欺キ且ツ何處ナク惡
 奥ノ人チ襲フニ至テハ何如ナル多情才子トイヘドモ一旦
 ハ辟易セザルヲ得ズト云フ(然レドモ此ノ臭手ノ爲メニ往
 且ツ昔手手臭手手我レコレヲ畏ル)今此ノ四等ノ娼妓ニ
 付テ重複ヲ厭ハズ其品格チ左ニ列記スヘシ

大見世ニ住スルノ娼妓ハ流石ニ魁頭ノ尊號チ受ケ衣服ノ
 美ナル用度ノ整ヘルガユニニ坐臥進退自カラ閑雅コシテ
 頗ル上品チ粧フモノ、如シ然レドモ近來ハ所謂子飼ヨリ
 娼妓トナルモノ無ク中年ニシテ籍ニ入ルモノ十中八九ナ
 レバ宿場女郎ノ住替セルモノ有リ私窩子ヨリ一足飛ニ登
 ルモノ有リ楊弓店嬢ノ化セルモノ有リ裏店ノ淫奔女ノ好
 テ身ヲ沈メルモノ有リ故ニ稍ヤコレニ親ムコ及テハ忽チ
 化ノ皮ヲ現ハシテ人チシテ厭惡ニ堪ヘザラシムルノ事多
 シトス而シテ此輩ノ上頭ナルモノニ至テハ率チ倨傲ニシ
 テ尻以テ客チ敷キ鼻以テ人ニ接シ其馬鹿權式ノ盛ンナル

ハ中々以テ尋常賣女ノ比ニアラズ聞ク近來名ヲ江湖ニ博セル一娼妓某ハ其ノ客ニ接スルニ尤モ其人ヲ選ビ張リト意氣地ノ舊式ヲ棄テ、唯ダ金ノ有リサウナル客ニ人ヨ遇セゾトヲ要シ素寒貧的ヲ見ルヲ猶ホ徹癡人如シ一客有リ嘗テ其名ヲ聞キ樓ニ登リテ某ヲ聘セシヲ求メシニ其ノ貧人ナルヲ知り辭シテコレニ應セズコレヲ強ユル再四某其寫眞ヲ與ヘテ曰クコレヲ視テ以テ妾トセユト客遂ニ情々乎トシテ寫眞ヲ抱テ去レリト又タ聞ク一娼某ノ如キハ遊客ノコレヲ聘スルヲ數回ニ及ベル意ニ適セザルハ唯カ顔ヲ坐敷ニ出スノミニシテ閨房ヲ同ヲスルヲ肯セズ然

レドモ其情價ヲハ一文モ負ケズヨ願シ去ルト云フ而シテ客ノコレヲ恕テザルハ通ト呼ハレシヲ求ムルカ抑モ亦ダ粹ト稱セラレシヲ冀フカ通カ粹ガ吾輩コレヲ解スルヲ得ザルナリ嗚呼世間誰カ女權ヲ伸張スベキヲ説クモノゾ誰カ男權ヲ抑制スベキヲ論ズルモノゾ女權ノ男權ニ駕スルヤ已ニ遠シ矣若シコレヲ信ナラズト言ハバ請フ此ノ郷ニ來テ視ヨ中見世ニ居ル者ハ置位一等ヲ讓ルガユニ品格亦一等ヲ下ラザルベカラズ初會ノ客ニ遇フトイヘドモ猶ホ狎客ノ如ク饒舌媚ヲ獻シ嬌態情ヲ術ニ振ラルハ此時トシテハ梳篋ノ勤メニヨレバ食物ノ好ミヲナシ且ツ客ノ前

〇於テムシヤク然トシテ食ヒビチヤク乎トシテ啜ル
 其ノ態度輕躁ヨシテ自重ノ色ナシ並見世ノ者ハ又一等チ
 下ルガユニニ初會狎客ニ論ナク客ニ對シテ我儘チ並ベ自
 カラ其食セント欲スルモノヲ買ハシメ且ツ舖丁ヲ酒席ニ
 呼テ縱マヽ飲食セシメ或ハ貴客十錢頂戴ナト乞テコレ
 ヲ投與スルニ至ル其ノ廊下ヲ過グルコアツツテハ急步
 ヲ聲ノ饒言人ヲ罵ル蓋シ是等ノ娼妓ハ中等以上ノ人ニ接
 スルヲ稀レナレハ品格ノ野鄙ナルモ亦々怪シムコ足ラザ
 ルナリ下見世ノ者ニ至テハ卑陋ノ尤モ卑陋ナルモノニシ
 テ更カヘカ衣無ク寝ルコ聞無ク衆妓相共ニ雜居シテ髮部屋

〇起臥ニ悉々手タリ喧々然タリ總テ廉耻ノ何物タルチ知
 ラズ口ニ任セテ客ヲ罵リ鼻ニ付テ謠ヲ唱フ襟開ケドモ
 コソヲ閉ルチ知ラズ脚露レドモコレヲ掩フチ知ラズ客
 ニ接スルニ至テハ其ノ囊中ノ有無ヲ論ゼズ一錢モ多ク貧
 ランコヽ汲々タリ其ノ醜態ノ如キハ實ニ名狀スベカラザ
 ルモノ有リ世或ハ是等ノ樓ヲ號シテ幽靈店トイフ蓋シ半
 纏着即チ職工馬丁等ノ專ラ登樓スルヲ以テナリ(半纏ノ裾
 モ幽靈ノ脚ナ) 短キハ恰
 凡ソ娼妓トナルノ婦女ハ概チ貧家ノ處子寡婦等ノ多シト
 スレドモ往々良家ノ子女ニシテコレニ陷ル者無シトセズ

多クハ惡漢ノ誑惑ニ出ル者有リ或ハ一家滅亡シテ依ル無
 キコ出ル有リ或ハ夫又ハ父兄ノ爲メコ前金ヲ受ル者有リ
 或ハ性行淫肆ナルガユエニ父母良人ノ怒リニ逢フテ苦界
 ニ沈メラル、有リ千種万態ナリト雖モ一タビ身ヲ花柳郷
 裏ニ沈ムルキハ忽チ淫肆懶惰ニ流レ居ル一歳ニ及バハ
 習慣自カラ性トナリ娼妓ヲ以テ最上ノ逸樂世界ト思想シ
 コレヲ耻ヂザルノミナラズ反テコレヲ娛ミトスルニ至ル
 故ニ一旦多情ノ客ニ遇フテ價ヒ去ラル、トイヘドモ身ヲ
 全フスル者ハ甚ダ稀レニシテ必ラズ再ビ狹邪ニ復スルモ
 ノ多シ然レドモ年四十ヲ超ユルニ及デハ復タ敢テ顧ルモ

ノ無ケレバ己ムヲ得ズシテ樂籍ヲ脱ストイヘドモ生計ヲ
 營ムヲ知ラザレバ去テ糊資婆トナル有リ板間稼ギト爲テ
 德役ニ處セラル、有リ或ハ惡疾ノ爲メニ眼ヲ失テ食ヲ道
 路ニ乞フ有リ或ハ口ヲ糊スル能ハズシテ自ラ縊レテ死ス
 ル有リ凡ソ花柳郷裏ニ於テ全盛ノ名ヲ轟カシ花客西施ヲ欺
 キ玉貌小町ヲ羞ヤシムルノ者トイヘドモ十年ヲ過グルノ
 後ハ必ラズ是等ノ不幸ニ陥ラザルハ殆ン稀レナリ而シテ
 テ日ニ出稼娼妓トナルノ婦女多キハ果シテ何ソ心ヅヤ著
 者ノ如キハ所講入ラザルノお世話ナリト雖モ洵ニ浩歎ニ
 堪ヘザルナリ(隣人痴ヲ疾メ蠅ヲ逐テ可ナラス)

娼妓トナラント欲スル者ハ周旋人ヲ以テ其ノ出稼ギセシ
トスルノ樓ニ至リ謁見ノ禮ヲ樓主ニ執ル樓主ハ其ノ容貌
ノ美醜年齒ノ少長ヲ檢シ及ビ嘗テ娼妓トナリタルノ事ア
ルヤ否ヲ問ヒ前借金ノ額ヲ定ム其金額ハ等差有リトイヘ
ドモ少キモ百五十圓ニ下ラズ多キハ五百圓ニ上ルトイフ
而シテコレヲ償却スルノ道ハ稼高即チ情價配分中ヨリ辨
償スルモノトス其ノ配分ノ法ハ譬ヘバ情價八十七錢五厘
ナレバ此内二十五錢ヲ以テ娼妓ニ付シ内十二錢五厘ヲ前
借ニ充テ殘十二錢五厘ヲ小遣ニ供ス殘餘六十二錢五厘ノ
内六錢ヲ引手茶屋ニ供錢ニ與ヘ(茶屋ノ事ハ後編貸三錢ニ

厘ヲ税金ニ充ツ其殘額五十四錢六厘ヲ樓主ノ潤益トナシ
故ニ情價中ヨリ娼妓ノ受クル所僅々十數錢ナリトイヘ
トモ外ニ昵親金ノ分配及ビ遊客ヘ請求金極メテ多キ事
以テ全盛ナルモノニ至テ八月々得ルトヨロ數百金ニ上レ
リ然レドモ費用亦タ甚々多ク三季ノ遷替ヲセザルベカラ
ズ梳攏ノ仕着ヲ出サザルベカラズ且ツ日々衣服飲食ニ消
費スル所頗ル多クヲ以テ常ニ窮困ヲ告ゲザルハナク前面
客ニ驛リ後面ニ衣ヲ典スルハ其ノ通例ナリトス故ニ其前
借金ノ如キハ永劫コレヲ返スニ由ナク隨テ償ヘバ隨テ借
其困苦亦ク想ラベキナリ鄙語ニコレ有リ曰ク子々孫々

無^レ作^レ妓^〇終^〇年^〇利^〇得^〇付^〇他^〇人^〇

前^〇(二)私^〇窩^〇子^〇

新月影暗ク夜色寂然タリ橋畔ノ楊柳長ク垂^タレテ人ヲ招^ク

ガ如ク街狗微ニ鳴テ客ヲ呼ブニ似^タル此際ニアタリ街頭

ニ徘徊スヲ行客ノ後ニ隨ヒ且那入ヲツシヤオナ^レノ微音ヲ發

スルモノハ是レ私窩子ノ更^ヒ手^バ婆^バナリ目今是輩ノ盛^メナセ

到^ル處トシテ見ザルナク行ク處トシテ逢ハザルナク然レドモ

銀座尾張街、神田柳原、本所緑町、築地島原、麻布日々窪等ヲ尤

モ盛^メノナリトス而シテ銀座尾張街ニ在^ルモノモ優^ク等^トス

往々容貌十人並^ニテ備^ヘ衣^服モ甚^ク陋^シカラザル者アリ其

巢窟^ノ概^テ劇^ノ街^ノ近^傍ニアリ吾輩ハ未^ダ其^ノ情^況ヲ實^見セ

ズ且ツ記スルヲ好^マザレバ一二傳聞スル所ヲ左ニ零記ス

是等ノ醜業ヲ營^ム者ハ晝間ノ常職無キアリ或ハ常職ア^ル

ドモ所得少キガ爲^ニ竊^カニ淫^ヲ醫^ギタ^コシ^テ補^フモ^ト

有^リ大^抵婦女自^カラ好^テ醫^ク者ニシテ父兄良^人等^ノ爲^メ

ニ身ヲ沈^メタル者等有^ルナク大ニ娼妓ト趣^キテ異^ニセ^リ

ト云^フ然^レドモ私窩子モ亦二種ニ區別シ一チ自^前稼^トイ

ヒニテ抱^トイ^フ蓋^シ自^前稼^キハ巢窟^ヲ借^リテ自^カラ醫^ク

者ニシテ抱^ハ窩^主ヨリ前^借金^ヲ貸^シ稼^ガシム^ルモノナ^リ

者ニシテ抱^ハ窩^主ヨリ前^借金^ヲ貸^シ稼^ガシム^ルモノナ^リ

而シテ情價ハ大抵二十錢ヲ以テ通例トナシ上願ナル者ニ
 至テ五錢ヲ加フ客若シ天明マテ宿セント欲セバ五十錢ヲ
 拂ハザルヲ得ズトイフニ至テ是レハ常ニ惡漢見人ニ
 是輩ノ癩毒疥癬等シ惡疾ヲ帶ルハ論ナク常ニ惡漢見人ニ
 交ルガユエニ其性質ノ兇暴ナルニ至テハ實ニ驚カザルヲ
 得ザル程ニテ往々枕搜ナレモシテナシ客ノ熟眠ヲ窺ヒ金
 囊等ヲ奪ヒ中夜ニ逃去ス還ラザル者有リ然レドモ客ハ己
 レノ隙行ヲ世上ニ流布スルヲ畏レ途ニ黙々ニ付スノ事有
 リト惡ムベキヲ甚シキニアラズヤ
 曳手婆娑客ヲ誘フ云巖窟ニ至ルヤ直ニコレヲ巖窟ニ入ラ

シム(ト云ハハ強氣ナレドモ寢室庖厨正堂)客未ダ眠ラザル
 ニ先テ必ズ情價ヲ収ム蓋シ其逃亡ヲ恐ルハナリ室内暗々
 トシテ灯光ヲ見ズ客若シ聲ヲ發シテ談話セント欲セバコ
 レヲ止メ酒ヲ酌マント欲セバコレヲ辭ス其人窮窟ナルコ
 怡モ主窟ニ投セラレトガ如シ是ニ於テ平地獄ノ名遂ニ空
 シカラズト云フ
 昔時娼ノ尤モ賤キ者ヲ夜發トイヒ引張トイフ目今此輩皆
 ナ私窩子ノ群ニ入ル古人曰ク夜發ヨリ晝三ニ至ルマテ買
 ヒ徧シセザレバ未ダ眞ニ風情ヲ知ル者ニアラザルナリト
 晝三ト晝夜ト等娼ヲイフノ號ニシテ是レ蓋シ往時放蕩者流ノ

言コシテ悪ムニ堪ヘタリ目今私富子ヲ愛スルノ客ハ卑賤
 者ノモシコシテ洒落^{シヤレ}モ華帽美衣ノ客ノコレヲ願ルガ如キ
 ハ絶エテ見ザル所ナリ而シテ是輩ノ尤モ喜ズハ舖丁職工
 ニシテ車夫^{クルマウヂ}ヲ如キハ甚ダコレヲ喜バスト云フ一車夫有
 偶ヤ曳娵^{ヒキ}ニ引レテ窩^{ウカ}ニ至ル曳娵速ニ情價ヲ拂ハンコトヲ請
 フ車夫二十錢ヲ與フ曳娵戶外ヲ窺テ遽然トシテ曰ク警官
 來リリ々々々々々々ト私娵驚テ裏口^{ウラグチ}ニ走ル車夫ハ沓^{オビ}ヲ収ム
 ルニ追テ遠ガニ聲ヲ拂テ去レリ是レ眞ニ警官ノ來レ
 ルニアラズ車夫ヲ去テ逃モルハ謀^カレルナリト是レヲ撒^サト
 曰フ

第三章 乗合馬車

乗合馬車ノ府下ニ開ケシヨリ茲ニ七八年東奔西走其幾百
 輛ナルヲ知ラズ大抵淺草雷神門及ヒ萬代橋ヨリ發シテ新橋
 ニ往反^{コキカ}スルモノヲ以テ多トシ其他品川ニ走ル者有リ板
 橋^{イタハシ}ニ赴ク者有リ或ハ山手及ヒ内藤新宿ニ往來スル者有リ
 車ノ長サ率^{オホキ}ニ七八尺許高サ六尺許大抵兩馬ヲ駕ス或ハ一
 匹立四匹立等有リ車上ニハ八人或ヒハ十餘人ヲ載ス車上
 ニ必ラズ幾人乗^ノ標^{ハシ}ヲ掲グ御者一名車前ニ立テ馬ヲ御
 及ヒ賃錢ヲ收ム大抵午前六時ヲ以テ車ヲ發シ午後十時ニ
 至テ止ム往テ復テ其發スル處ニ還ル日ニ大抵七八回ヲ以

テ定度トス車賃ハ一里ニ付三錢内外ヲ收ム是レ其ノ概略
 大ニ車賃ニ付テハ大抵十兩六錢ニ定メテ凡ソ乗車スル者ハ
 車ヲ走ラヌニテアリ道路ニ於テ客ヲ呼ビ蒸籠ノ地或ハ橋
 邊又ハ街衢ノ曲處ニ到レバ車ヲ停メテ客ヲ待ツ御者叫テ
 曰ク新橋々々或ハ淺草々々ト高聲ニ喚テ以テ求メニ應ス
 小所有リ車後ニ走リ行客ノ袖ヲ曳テ乘車ヲ勤ム隨テ辭ス
 レバ隨テ勤ム客若シ辭スルニ言テ失スルハ或ヒハコレニ
 繼グニ罵詈ヲ以テス而シテ其乘客ノ如キハ多クハ小買細
 商或ハ舖丁職人等ノミニ限ラズ高帽ノ貴客長袖阿嬭等ノ
 レニ駕スルモノヲ見ズ畢竟乗合馬車ハ下等人ノ爲メニ設

クルモノニ似ルルモノアリモ
 馬車ノ多キ御者ノ夥キ悉ク然リトイフニハアラザレドモ
 往々不良殘忍ノ御者存リテ若シ田舎客ト認ルトキハ非常
 ノ殘酷ヲ以テ處スルヲ存リ是等ノ事ハ屢々新聞紙上ニ揭
 出且ツ常ニ傳聞スル所ナリ今其一事ヲ記シテ以テ讀者ニ
 報ズベシ頃日一馬車有リ高輪ヨリ東京ニ還ラザトス偶
 田舎客有リ四五騾ヲナシテ來ル御者一瞥シテ謂ク
 奇貨居クベシト頻ニ車ニ乗ラシメテ勤メテ出テ客初
 ハ其ノ容貌ノ猥惡ナルヲ懼レテ趨起テ御者巧言ヲ以テ
 シテ欺キ遂ニ新橋ニ至ルマデノ賃錢二名ニ少キ五錢少

ノ約束ヲ以テ乗セテ發セリ御者以謂ラク通街ノ間ニ於テ
 事ヲ起サバ忽チ人ニ認メテレテ而倒ナラント故テ迂路
 ナ取リ二本履ニ至リ車ヲ寂實人無キノ野ニ停メテ曰ク是
 レ新橋ナリト客皆チ第一驚テ喚シテ道ヲ聞ク新橋ハ馬車
 熱間人家輻湊ノ地ナリト何ゾ此ノ地ノ寂實ナルヤト御者
 曰ク車已ニ至レリ請フ約束ノ一名一圓ヲ拂ヘト客皆第二驚
 テ喚シテ呆然タリ御者恐喝シテ道ヲ汝等ノ無道ナル車ヲ
 乘込セント欲スルヤ我レコレヲ處スルノ道有リト怒氣凛
 然タリ客其ノ威勢ニ恐レ遂ニ三四圓ヲ投シテ去レト亦
 驚クベキノ甚キコアラズヤ

第四章 ボン引

「ボン引トハ旅店ヨリ出シテ客ヲ誘フモノヲ稱フル號ナリ
 是輩ノ府下ニ於テ網ヲ張り旅客ヲ要スルノ所ハ万代橋淺
 草藏前等チ多シトス巨大ナル旅店ハ其營業モ亦チ自カラ
 端正ナルガユエニ決シテ此輩ヲ用ヰズトイヘドモ卑陋ナ
 ル下等旅店ニ至テハ所謂定客ト稱スベキ者モ無ク營業常
 ニ寒冷チ極ムルニヨリ遂ニ是輩ヲ用ヰザルヲ得ザルコ至
 ルナリ而シテ此輩ハ尋常ノ雇奴補丁ト異ニシテ家事ノ使
 令ニ供セズ唯ダ旅客ヲ引クチ以テ常務トシ多額ノ給料ヲ
 受クルモノナリト云フ

都俗痴鈍ヲ「ボン」トイフ蓋シ「ボン」引トハ痴鈍者ニアラザレ
 其ノ誘引ニ應セザルヲ謂フナリ是輩ガ旅客ヲ誘フニ
 マツタハ巴レノ店ヲ賞讃シテ措カズ曰ク新建本月ヲ以テ
 成レリ飲食物ハ皆ナ極メテ精巧ナリ曰ク今日疊チ入レ替
 タリ白ク何日ヲ何ト口カラ出任セニ其ノ美ヲ稱シ其精
 誇ル痴鈍ノ客ニ至テハコレヲ妄信シ遂ニ其ノ誘ヒニ應ジ
 其家ニ至レバ囊キニ新建ト稱セルハ百年以前ノ新建ニ
 係リ飲食物ノ精巧ト唱ヘタルハ蓋シ隣樓割烹店ハ噉チ
 セルモノナラシ是ニ於テ手客初メテ愕然ニ堪ヘズト雖モ
 一度此輩ノ手ニ陥ルキハ百方術ヲ設ケテ容易ニ轉宿スル

ヲ許サズト云フ
 是輩ト暴茶屋(業ヲ爲ス者)及ビ「店」(娼家ノ貧樓)ハ密
 附シテ相離レザルモノ、如シ是輩ガ少年旅客ヲ誘ヒ來リ
 其ノ所謂「ボツト出」ナリト認ムルハ巧言蜜語ノ如ク輕舌紙
 ノ如ク頻リニ花柳街裏ヲ一覽セシテ勸メ客若シ應セバ
 直ニ車ニ載セテコレヲ暴茶屋ニ送ル暴茶屋ハ客ノ好ムト
 好マザルトナリ論ゼズ無理無体ニ引テ「ボリ」店ニ登ラシム
 トシテ死地ニ就クガ如シ(是ニ於テ歌娼現レ並臺湧キコレ
 是繼シニ内藝者ヲ以テシコレニ尋ヌルニお酌ヲ以テス紙
 花飛テ雪ノ如ク鋪丁拜シテ卓爺ノ如ク客呆々愕々言フ所

ヲ知ラズ坐隅ニ在テ身ヲ震ハスソレ翌朝ニ至テ茶屋會計
 書ヲ出ス披テコレヲ覽レバ二十餘圓ノ惣計ナリ客是レ於
 テ益々驚愕措ク所ヲ知ラズコレヲ官ニ訴ヘント欲スレド
 モ固ク守リテ放タズ竊カモ逃ント欲スレドモ土地ノ不察
 内ナルヲ如何セシ依テ已ムヲ得ズ終ニ金囊ノ底ヲ叩キテ
 コレヲ償フ若シ所有ノ金不足スルモハ相共ニ謀リテ衣服
 ナ履ギ一物ヲ存セザルニ至ル田舎客ノ往々此ノ不幸ニ罹
 リテ遂ニ湯屋ノ雇奴トナリ名ヲ三助ト更ムル者少カラズ
 而シテ獲ル所ノ金ハコレヲ三分シテ「ボソ引」其ノ一ヲ叔
 餘ハ暴茶屋「ボリ店」平分スト云フ噫恐ロシイカナ

第五章 落魄者

零丁貧困ニシテ遊手ナルモノヲ落魄者トイフ是輩ト窮民
 トハ大ニ趣ヲ異ニスルモノニシテ窮民ハ貧苦ノ中ニ生長
 シ貧苦ノ中ニ終ルガユニニ大抵幼ヨリ些細ナル職業等ヲ
 習ヒ兎ロモ角ニモ稼ギテ其日ヲ送ル者ナリ落魄者ニ至テ
 ハ然ラズ身職業ヲ營マズ只ダ遊手シテ以テ口ヲ糊セシ
 ナ欲ス目今士族ニ此輩ヲ多シトス足輩ノ破廉耻ナルハ却
 ツテ純粹ノ窮民ヨリハ甚シキモノ有リテ一タビ零丁ノ境
 ニ陥ルヤ苟クモ一面識アルノ家ニハ必ラズ屢々コレヲ訪
 テ金ヲ乞ヒ隨テ投スレバ隨テ請フコレヲ辭スレバ憤々然

トシテ罵リ去ラシムレバ復タ來ル脚ク某氏ノ如キハ昔ヲ
 舊幕府ニ仕ヘテ要路ニ陞^ノレルノ士ナルヲ以テ目今徳川氏
 ノ舊^{モト}隸^ケ屬^{ライ}ニシテ是輩ノ群^トコ入りタル者來テ金ヲ乞フ者陸
 續トシテ跡ヲ接シ大抵日ニ十餘名ノ多キコ上レリ故コ同
 氏ノ其請^コニ應シテ投與セラル、ノ施金ハ毎月五六百圓内
 外コ下ラズト以テ是輩ノ多キヲ知ルベキナリ
 坊間ニ於テ往々觀ル所ノ者有リ破衣垢面、草履長刀ノ如ク
 羽織^{アラ}荒布ノ如シ手^{アラ}コ一小冊ヲ携ヘ人家ニ入テ哀ヲ請フ小
 冊^コ記シテ曰ク某縣士族舊某侯ノ臣姓名私儀近年不仕合
 相續^キ云々ト必ラズ記スルコ舊^{ナニ}何^ノ守^ケ家^{ライ}來^イノ數字ヲ以テス

天下ノ廣キ職業ノ多キ何ヲ營ミテカ口呆スベカラザラ
 シ何ヲ爲シテカ成ラザラン^ハレノ怠惰遊手シテ窮困ニ陷
 ルヲ尤^トメズシテ舊主^コ怨^ヲミアルモノ、如ク人家^コ哀ヲ請
 フニ當テ故サヲ^コ其名ヲ署ス是ヲモ宥^シスベク^ンハ就^レレ
 カ宥^ススベカラザラン亦タ嘆ズベキニアラズヤ
 第六章 雜誌

雜誌ヲ分テ三種トス第一ヲ農商工事等ヲ叙スルモノトシ第
 二ヲ專ラ時事ヲ論ズルモノトシ第三ヲ風流滑稽ノ事ヲ揭
 ゲ以テ遊^{ナシ}戯^{サミ}ニ供スルモノトス而シテ各々本社ヲ置テ以テ
 コレヲ發行ス毎週一回ヲ發兌スル有リ每旬^トコ刊行スル有

リ或ヒハ一月五回ヲ定刊トシ或ヒハ一二月間ニ纏ワツカコ一部ヲ發スルアリ目今府下ニ於テ永續スル所ノ雜誌社ハ農商工事ヲ叙スルモノ五六社時事ヲ論ズルモノ七八社風流滑稽ノ事ヲ掲グルモノ五六社トス其他ハ甲起乙仆朝ニ創メヒトツオコレンバヒトツツアレルニハシメテ夕タ夕タ廢シ出沒消長極リ無ク其五六年間永續スルモノ、如キハ實ニ見ルニ希ナル所トス

雜誌社ハ新聞社トハ大ニ其勢力ヲ異コトニシテ大抵編輯モ纒ワツカロー一二八ノ手ヨリ成リ賣高モ亦タ三四千部ヲ以テ最多額トス其ノ尤モ微々ナル者ニ至テハ率子三四百部ニ下レリ

其ノ活字器械ヲ本社ニ備ヘテ印行スル者ノ如キハ纒ワツカコ一

社ヲ見ルノミ

農商工事ヲ叙スル雜誌ノ如キハ暫ク措テ論ゼズトイヘドモ風流滑稽ヲ專ラトスルニ至テハ專ラ看客ノ意ニ投シテ喝采ホウライヲ博セシト欲ルガニエニ滑稽諧謔一笑ヲ買ハントシテ知ラズ識ラズ落咄家前坐ノ代理ヲ務ムルアリ或ヒハハ疎末千万ナル詩歌及ビ煉漢文ヲ掲テ得意然タルアリ或ヒハ人情ニ託シテ男女ノ情痴ヲ説キ猥褻淫肆讀者ノ良心ヲ害スルアリ或ヒハ俳優ヲ尊ブテ那蘇教徒ノ上常ニ於ルガ如ク藝人ヲ敬スルヲ老婆ノ彌陀ニ於ルガ如ク不見式千万ナル卑屈ノ問屋トモ稱スベキアリ或ハ讀テ屁ノ如キノ川

柳狂句ヲ掲ゲ誦シテ冀ノ用ニモ立タザル俳句ヲコトク
 然トシテ列記スルアリコレヲ要スルニ是種ノ雜誌ハ専ラ
 看客ノ娛樂ニ供スルヲ主トシ恰カモ往時ノ黄表紙草艸紙
 ノ如キモノニシテ其編者モ亦稗官者流ナレハ深ク尤ム
 ルニ足ラザレドモ其時事ヲ論ズルノ雜誌ニシテ往々過激
 疎暴ノ弊アルハ實ニ歎セザルヲ得ザルナリ其新聞記者嘗テ
 此事ヲ論シテ曰ク俚語ニ曰ク醫者ハ醫者ダガ藥箱持タヌト
 豈ニ獨リ醫者ノミナラン新聞記者ニシテ勸懲以テ世ニ益ス
 ルノ識見ヲ持タヌニ於テハ醫者ノ藥箱ヲ持タヌヨリ下ダ
 ルコト万々ナリト申スベシ其ノ識無キヨリシテ音ダ世人

ニ利益ヲ與ヘザルソミナラズ却ツテ風化ヲ戕賊スルコト
 有ルニ至ル豈ニ哀シカラズヤコレヲ記シテ毫モ世ニ益無
 クコレヲ筆シテ唯ダ人ニ害ヲ與フルニ於テハ寧ロ之レヲ
 書セザルノ甚ダ優レルヲ知ルナリ此頃或ル雜誌ノ題面ヲ
 一閱スルニ某君ガ死シテ喜ブ者ハ其レ唯ダ某君カト云フ
 ノ目有り我々ハ斯クノ如キ文ヲ讀ムコトヲ欲セズ故ニ何
 等ノ文章タルカチ知ラザレドモ是レ記者タルモノ、宜ク
 筆スベキ事件ナルカ噫一人ヲ譴責シテ以テ天下ノ幸福ヲ
 圖リ一人ヲ攻撃シテ以テ公衆ノ禍害ヲ救フニ於テハ記者
 固ヨリ辭セザル所アリ縱ヒ其ノ人ノ忿怒ヲ招クモ敢ヘテ

願ミザルハ記者ノ本分ト謂フベシ其レサヘモ時トシテハ
 心ココロ快カラザルコト無キコアラズ然ルチ況ンヤコレヲ筆
 シテ毫厘ノ益モ無キニ筆ヲ舞ハシテ人ノ意内ココロノうちニ蓄藏スル
 秘蘊ヲ擇出スルニ於テチヤ人心果シテ探ルベキカ我々ハ
 記者ノ敏捷ヲ以テストイヘドモ能ク人ノ心中ニ立入り彼
 レハ斯ク思フテ喜ビ彼レハ斯ク考ヘテ哀ムト謂フコトヲ
 知り得ベカラザルチ信ズ縦令たとひ奇異ナル探偵ノ術有テ万ニ
 一ツコレヲ知り得ルトモ決シテコレ紙上ニ記スベキノ
 コトニアラズ之レヲ記シテ何ノ役ニモ立タズ却テ世ノ風
 教ヲ害シ人心ヲ戕シゴクフノ媒介ナカガタタレバナリ噫奇ヲ好ミ異ヲ表

セシト競カシネヨリ竟ニ勤懲ノ本旨ヲ忘レ忠厚ノ素懷ニ背キ
 唯ダ許アズキテ以テ直トシ罵ツテ以テ勇トナス者有ルニ至ル
 記者ノ見識モ亦タ地ニ墜ナナル哉然リトイヘドモ古人云
 ヲ君子ノ過トハ日月ノ食ノ如シト記者ニシテ斯クノ如キ
 失有ルモ蓋シ一朝興ニ乗ヌタルノ擧シウゲニ出テ決シテ其ノ本
 心ニアラザルナラソ我々ハ必ラズ之レヲ將來ニ改メ講者
 亦嘲笑ヲ受クルコト無キニ至ルヲ信ズ豈ニ彼ノ數醫ト同
 視シテ止マソヤ云々ト蓋シ頂門ノ一針アキヲ稱スベキナリ
 第七章 (落咄家) 講釋師
 落咄家ト講釋師トハ稍々趣ヲ同スセルモノナリ其ノ區

別々叙スレハ落咄家ハ専ラ落語情話ヲナシ講釋師ハ専ラ
 軍記史談ヲ演スルモノナレドモ近來ハ大ニ混淆シテ講釋
 師ニシテ情話ヲ述ルアリ落咄家ニシテ史談ヲ演スルアリ
 殆シク大異無キモ少ク如クニナレ然レドモ落咄家ハ大
 率洒落ヲ主トシ講釋師ハ莊嚴ヲ主トシ以テ本色ト大
 是輩ハ大率教育ヲ受ケタルノ下無ク眼ニ一丁字無キノ徒
 多クシハ其ノ演スル所ノ軍記史談ノ誤謬多キヲ以テ
 往々無根ノ作説ヲナシテ古人ヲ誣ヒ忠ヲ以テ邪トシ惡ヲ
 以テ善トスルノ類無シトモ而シテ喜ヲ其ノ談話ヲ聽シ
 徒ハ率チ文盲人ナレバ妄信ヲ以テ實トシ甲語リ乙傳

途ニ實事ヲ掩晦スルニ至ル事アリ
 是輩ハ幫間者流トシ運庭ノ間髪ヲ容レズ常ニ招レテ酒席
 ニ侍シテ與テ幫間ヲ敢ヘテ玩弄物ニ供セラシメテ辭セザルノ
 事ナラス反テコレヲ榮譽トシ坐敷ト稱シテ誇ルニ至ル
 且ツ此輩ハ率チ品行汚下ナルヲ免レズ其ノ少年ナル者ニ
 至テハ花ヲ竊ミ柳ヲ折ルヲ以テ半ハ其ノ世計トナスモノ
 如シ（大者ニ唯マ少年ノミナラシヤ考）是レ世人ノ遍シ知ル
 所ナリ而シテ此間ニ立テ卓然其ノ游泥ニ染マズ學有リ行
 有ル圓朝ノ如キハ亦ク得ガタキノ人物ナレバ今左ニ其人
 小傳ヲ附ス

三遊亭圓朝ハ東京ノ人ナリ人ト爲リ温和甚ダ酒ヲ嗜マズ
 史ヲ讀ミ書ヲ好ム俳句ニ善シ幼ロシテ笑話ハ長スルヲ以
 世名アリ弱齡ニシテ府下諸笑話家ノ冠トナル弟子數十人
 爭ヒ其偏號ヲ得ルヲ以テ榮トス目今笑話ヲ以テ名ヲ都下
 ニ喧ワスル者多クハ皆ナ其ノ門下ニ出ヅ圓朝師ニ事フル
 篤シ其ノ師圓生家貧ニシテ病ム衆コレニ近ク者ナシ獨リ
 日夕往テコレヲ看護ス其ノ病背ナルヤ爲メコ棺ヲ買テ厚
 シ葬リ祭ヲ設ケテ去レリ官コレヲ聞キ命ニテ都下笑話家
 ノ稱ヲ執ラシム俗ニ之レヲ頭取トイフ人以此衣錦ノ榮ニ
 比レ圓朝親ニ事フル孝ナリ父圓太郎ノ死スルヤ哀毀骨ヲ

殺ギ心喪三年出テ盛饌ニ侍ヒシハ必ラズ佳肴ヲ懷ヒ歸
 テ以テ母ニ遺ル母病ヒコ臥ス侍養甚ダ勤メ飲食起臥皆ナ
 親ヲ嘗メテ而シテコレヲ扶侍ス眠テザルヲ殆ンド數十
 幕府嘗テ賞スルコト金ヲ以テス圓朝業ヲ勤ムル精シ七歳其
 シ伎ヲ善クシ父コレヲ奇トシ贊テ圓生ニ執ラシム圓生教
 導備ニ至ル幾クテラズシテ業大ニ進ム此ノ時ニ方テ都下
 笑話ヲ業トスル者稍ヤ衰ラ圓朝慨然頽風ヲ振起スルヲ以
 テ巴ノガ任トナシ輒チ起テコレヲ排シ務メテ陳腐ヲ去リ
 新奇ヲ演ス昆低折旋具サコ其ノ妙ヲ極ム万客感歎ニ手ヲ
 拍テ稱賛ス數年ヲ出ズシテ名遠近ニ喧々目今一歳ノ收入

率チ二三千圓ニ下ラズト云フ「圓朝弟子ヲ遇スルニ慈ナリ
 弟子來リテ窮乏ヲ告レハ輒チ金若クハ衣ヲ與フコレニ依
 テ烟ヲ揚グルヲ得ル者率チ數十人ニ下ラズ「圓朝禪ヲ信ス
 ル厚シ常ニ梵經ヲ誦シ禪理ヲ講ス嘗チ一禪室ヲ園中ニ造
 リ暇有レバ則チ結迦^カ跌坐^フシテ殆ンド一高僧ノ如シ其ノ伎
 ニ巧ナルモ亦チ禪理ニ得ル所有ル者「圓朝氏ハ出淵通稱
 ハ治郎吉世々金澤藩士ナリ父故有テ籍ヲ脱シ湯島ニ隱居
 シ笑語ヲ以テ業トシ圓朝禪生ト云フハ一説ニ其ノ日
 々第八章裏店ノ狀況ニ關シテ其ノ事ヲ詳述ス
 都下至ル處背坊新道ニ論ヲ從^ツ街曲折シテ連房^ナ建ツコ

レヲ讓^ル店トイフ五家一軒十舍ニ梁劇街ニ至テハ四十若ク
 少五十ヲ結テ一部トナス（コレヲ大長）「牙房相對シ中間ニ
 條ノ通路ヲ開クコレヲ路次トイフ路次多クハ架スルニ板
 チ以テ下ニ溝渠ヲ通ズ（コレヲ路次）一井汲チ同フシ數廁
 便チ共ニス吉凶相通シ出入門チ共ニス門必シテ午前六時
 ヲ以テ開キ午後十時ヲ以テ閉ジ鎖鑰ハ差配人コレヲ管掌
 シテ濫リニ權チ他人ニ假サズ王商雜居シ私窩子モコレニ
 賃シ前坐モコレニ住シ薄給先生モコレヲ借リ車夫モコレ
 ニ居ル一家率チ九尺二間臺所モコレヲ當テ圍房モコレヲ
 充テ賃居料ハ大抵一ヶ月五十錢ヲ出スト云フ

路次ハ大率狹隘ニシテ家屋ハ汚穢ナルガユエニ空氣腐敗
 シテ惡臭ヲ帯ビ大ニ人ヲ惱マヌヲ以テ若シ慣レザルノ人
 通行スルルキハ忽チ頭痛ヲ起シ路次ヲ出ルノ後始メテ蘇ス
 ルノ思ヲナス故ニ疫病ヲ來スニ裏店ヲ以テ尤モ早レトス
 又炎暑ノ候ニ至テハ戸内ノ住民ハ酷熱ヲ避メガ爲メニ戸
 チ推シ窓ヲ開テ厭シマテ不潔ノ涼風ヲ貪リ爲メニ病ヲ醸
 スル多シトス
 鄙諺ニ云フ貧人子多シト裏店ハ必ラズ幼兒多シ數牝一團
 見テ負ヒ穉ヲ抱テ井邊ニ群立テ甲牝道ヲ近來米價益々貴
 タ一圓僅ニ七升ヲ得ルニ過ギズ之ニ加フル火災屢ハ起

數百街ヲ燒クヲ以テ物價モ亦貴上ニ貴ヲ加フ吾儕何ヲ
 以テ口ヲ糊スルヲ得ノ乙牝道ヲ請フ心ヲ勞スル勿レ諍ニ
 云ク臥シテ幸福ヲ待ツト故ニ妾ハ每朝八時ニアラザレバ
 起キズ夜ハ貴昏ヨリ戸ヲ鎖シテ眠ル宿六コレヲ解セズシ
 テ小言ヲ吐ケドモコレヲ臍ニ上ホサズ大笑々々丙忽チ隙
 ヲ容レテ曰ク於松嬢知ラズヤ隣家ノ佐次兵衛爺ガ女ハ今
 朝何處ニ往クヤ多クハ權妻ノ謁見ヲ執ルナラン那ノ面目
 權妻コ似ズ鼻低フシテ額高シ幸ヒニ白哲ニ因テ醜ヲ掩ヘ
 ドモ如シ那的シテ黒カフシメバ也ヲ瞬間二十錢ノ顔色ナ
 シ然ルニ自カフ其ノ美ニ誇リ驕慢度ニ超ユ惡ムヘン々々

々々差配人ノ女モ亦カレ他ト一般ノ醜惡爺父ガ糞代ヲ集メ
 タルノ金ヲ以テ常ニ絹衣ヲ被ル何ノ絹衣ゾ糞衣ト稱スベ
 且ツ見ル頃日彼レ女異人ノ肩カカ懸テ擔ニテフ怡モ袱包フツヲ裝ル
 ガ如シ不形容々々々ト喧雜方ニ配ナリ甲速ニ手ヲ使フテ
 道イフ叱シツ靜シツコセヨ差配人來レリト警ル時警ル差配夫子一帳
 簿ヲ手ソツコシテ來ル數牝皆ナ惶忙稱兒ヲ抱負シテ去ル差配
 夫子目送ツテ曰ク咄トク店賃チヲ拂ハザルモ能ク口ヲ叩クツ

第九章 待合茶屋

待合茶屋或ヒハコレヲ待合宿トイフ一考証先生有リ説テ
 曰ク待合宿ヲ以テ妥當トス如何トナレバ都俗割烹舖レチカ

茶屋トイフ今待合宿ハ敢ヘテ割烹等ノ業ヲナサズ専ラ人
 ヲ宿セシムルモノナレバ宿ト稱スルコ如カザルナリト先
 生ノ説可否如何ヲ知ラズ記シテ以テ大方ノ参考ニ供ス
 府下待合宿考証先生ノ多キ到ル處コレヲ見ザルナク殆
 ノド一街一亭一坊一樓ト稱スルモ可ナリ其コレヲ構フル
 或ハ神社ノ境内ニ於テシ或ハ河岸ニ於テシ或ヒハ佛刹ノ
 側ニ於テシ或ハ新道ニ於テズ都人ハ交際ヲ貴ブ何等ノ人
 ナ待合スルノ多クメテ遂ニ斯クノ如ク數百ノ待合宿ヲ設
 クルヲ要スルコ至レルヤ蓋シ不可思議ノコト怪マザルチ
 得ザルナリ是ニ於テ乎記者ノ野暮ヲ現ハセリ

待合宿ノ入口ハ必ラズ腰障子ヲ以テス障子ニ題シテ曰ク
 此待合ト又題スルニ亭号ヲ以テス曰ク若竹曰ク初梅曰ク
 吉田屋曰ク大和屋曰ク何曰ク何ト戸内必ラズ酒トシテ
 片塵無ク清々乎ヨリ潔々然タリ側ラニ一大酒樽所謂薦被
 ナルモノヲ安ス題シテ曰ク色盛（此亭号有リシテ）天井必ラズ挿
 ムニ西町ノ大熊手ヲ以テス女將軍火桶ニ面シテ坐シ客ニ
 接シ媚ヲ献ス巧言流シテ川ノ如ク阿諛涌テ泉ノ如ク婢皆
 ナ治容艶粧亦々頗ル媚ニ長ス恰モ人ヲシテお世辭學校ニ
 入りタルカト訝ラシムルニ至ル
 凡ソ待合宿ハ秘密ヲ以テ主義トナスガユエニ其ノ汚名ヲ

防グニ於テハ頗ル充分ナルヲ以テ風流多情ノ客ハ必ラズ
 來テ茲ニ遊ブ故ニ久松がお染ニ馴ル、モ敢ヘテ湾兵衛ニ
 喚ギツケラル、ノ憂ヒナク長右衛門がお半ト昵シムモお
 絹ニ勘附ル、ヲ憚カラズ或ハ米八ノ來テ丹次郎ト膝ヲ疊
 スル有リ或ヒハ八重垣姫ノ装作ト伴フテ飛ビ込ムア、千
 狀万態悉ク述ルニ違アラズトイヘドモ蓋シ其ノ内幕ヲ詳
 キ出サハ奇々怪々ナルヲ多カラソ然レドモ記者ハ野暮ニ
 シテ是等ノ事ヲ知ラズ且ツ記事ノ或ヒハ猥褻ニ涉ラン
 チ畏ル故ニコレヲ零シ綴ニ左ノ一章ヲ録ス
 家ニ庖丁無クシテ肉ヲ送り酒舖ニアラズレテ釀ヲ輸ル手

拍^パテハ^ハ緩^ク來^キリ口^クチ動^クセハ^ハ鮓^ソ魚^イ至^ルル其^ノ便^ニ其^ノ輕^ク亦^タ
 知^ルベキナリ一室客有^リ方^ニ醉^{ヘリ}兩妓有^リコレヲ^ハ擁^ス
 客^道ヲ^ハ既^ニ醉^{ヘリ}歸^ランカ^レ乃^チ翁^將ヲ^ハ眠^ラントス^ル卿^等亦^タ
 倦^メリヤ如何^ニ甲妓曰^ク貴客^ノ側^ニ在^ラバ^ハ千^万年^ト雖^モ豈^シ
 二^ニ倦^ムノ期^アランヤ^ハ冀^クハ^ハ徹^夜セ^{ント}客^流涎^千尺^將ニ^ハ言^フ
 所^アラ^{ント}ス^ル隔壁^人有^リ婉^聲ヲ^ハ怒^ラシテ^ハ道^ヲ郎^ノ薄^倖
 如^キハ^ハ全世界^中マ^タ二^人アル^ベカ^{ラス}那^ノ地^獄女^奴ニ^ハ
 溺^レテ^ハ妾^ヲ棄^ツ嫉^妬何^ツ堪^ヘント直^ニカ^ヲ極^メテ^ハ郎^ノ肩^ヲ
 一^カ嗚^ク去^ル郎^亦タ^ハ怒^シテ^ハ女^ヲ打^ツ一^打一^罵罵^々打^ツ
 將^ニ一^場ノ^千話^喧嘩^ヲ起^サント^ス女^將軍^コレ^ヲ聞^テ述^ス

カニ走^リ來^リ叫^テ道^ヲ請^フ靜^コセヨ恐^クハ^ハ那^ノ話^來ラ^ン

第十章 代言人

府下免許代^言人^ノ外^ニ一^種竊^カニ^ハ代^言ノ^如キ^業ヲ^營ム^者
 有^リコレヲ^ハ潜^代言^トイ^ヒ或^ヒハ^ハ三^百代^言ト^イフ^口ヲ^開ケ^テ
 輒^ニ曰^ク權利^曰ク^ハ義務^ト常^ニ權利^{義務}ノ^四字^ヲ世^上ニ^ハ
 擔^ギ廻^リ古^証文^ヲ買^テ手^酷ク^掛合^ヒ或^ハ離^婚ノ^間ニ^ハ立^入
 テ^ハ紛^議ヲ^起サ^シメ^或ヒ^ハ娼^妓ヲ^助ケ^テ前^借金^ヲ踏^倒サ^シ
 メ^ント^シ或^ヒハ^ハ人^ヲ勸^メテ^ハ身^代限^ヲ出^サシ^ムル^等ノ^凶事^ヲ
 ナ^ス而^シテ^ハ其^ノ目^的ト^スル^所ハ^ハ一^文ヲ^リト^モ禮^金ヲ^多
 シ^ハ貪^ヲメ^ガ爲^メナ^リト^イヘ^ドモ^ハ足^輩ガ^爲ス^所ハ^ハ每^日失^敗

ノ多クハ所謂勞シテ功無キノ類ヲ免レズ是ニ於テ乎
三百代言ノ名空ニカラズ或ハ曰ク潜トハ鳥ノ水ニ潜ルガ
如ク法律ヲ潜ツテ事ヲ爲スノ罪ナリト或ハ然ラシ唯恐ル
鴨ノ學ブノ鳥ハ途ニ水ニ溺レシトナ

東京穴探三編 畢

明治十四年一月八日出版御届
同年三月五日發行

(定價貳十錢)

著者 松村操

新潟縣平民

神田區佐久間町
二丁目十一番地

出版者 望月誠

東京府平民

京橋區南鍋町
一丁目七番地

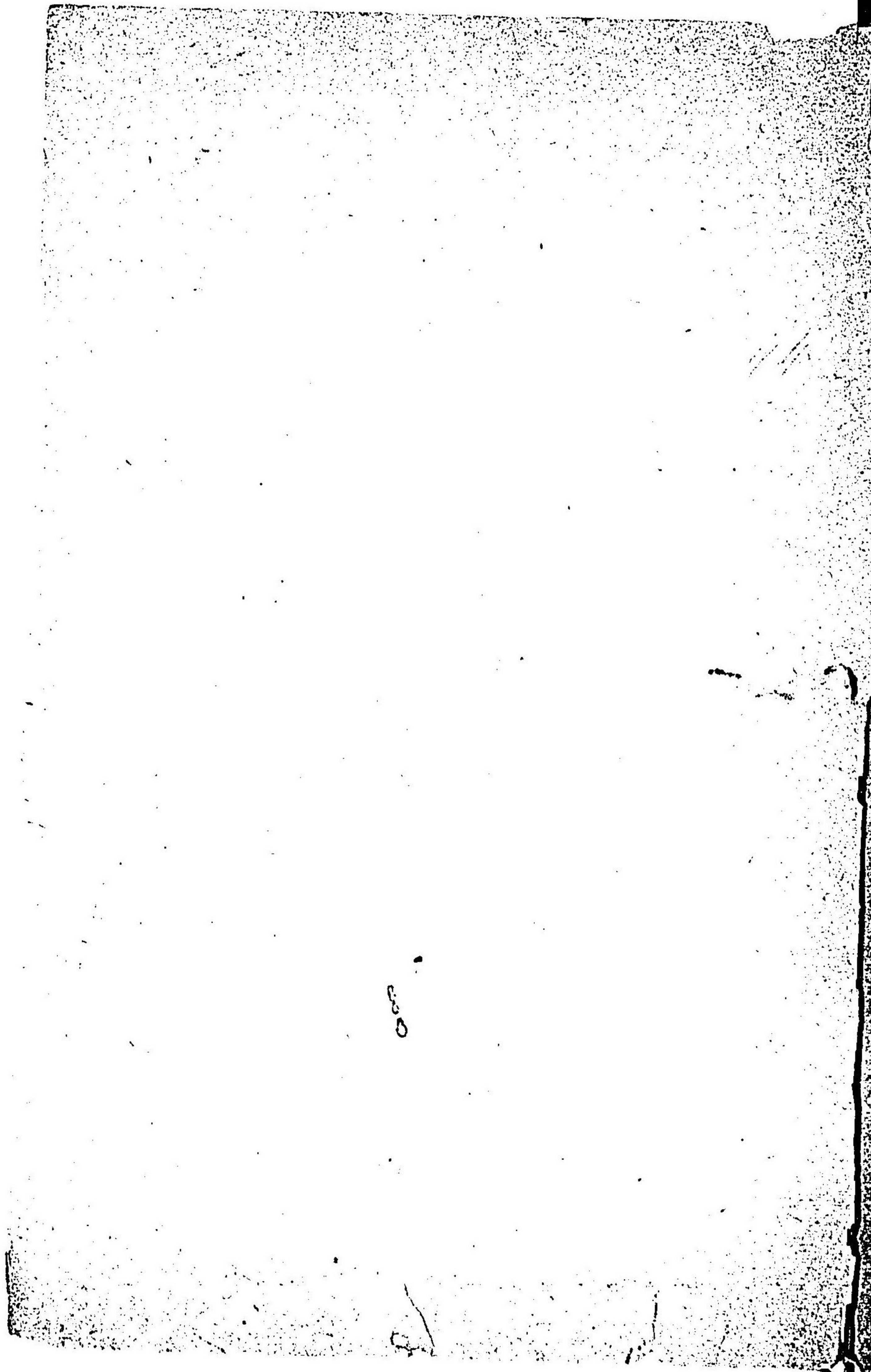
發兌元 兔屋誠

東京南鍋町一丁目

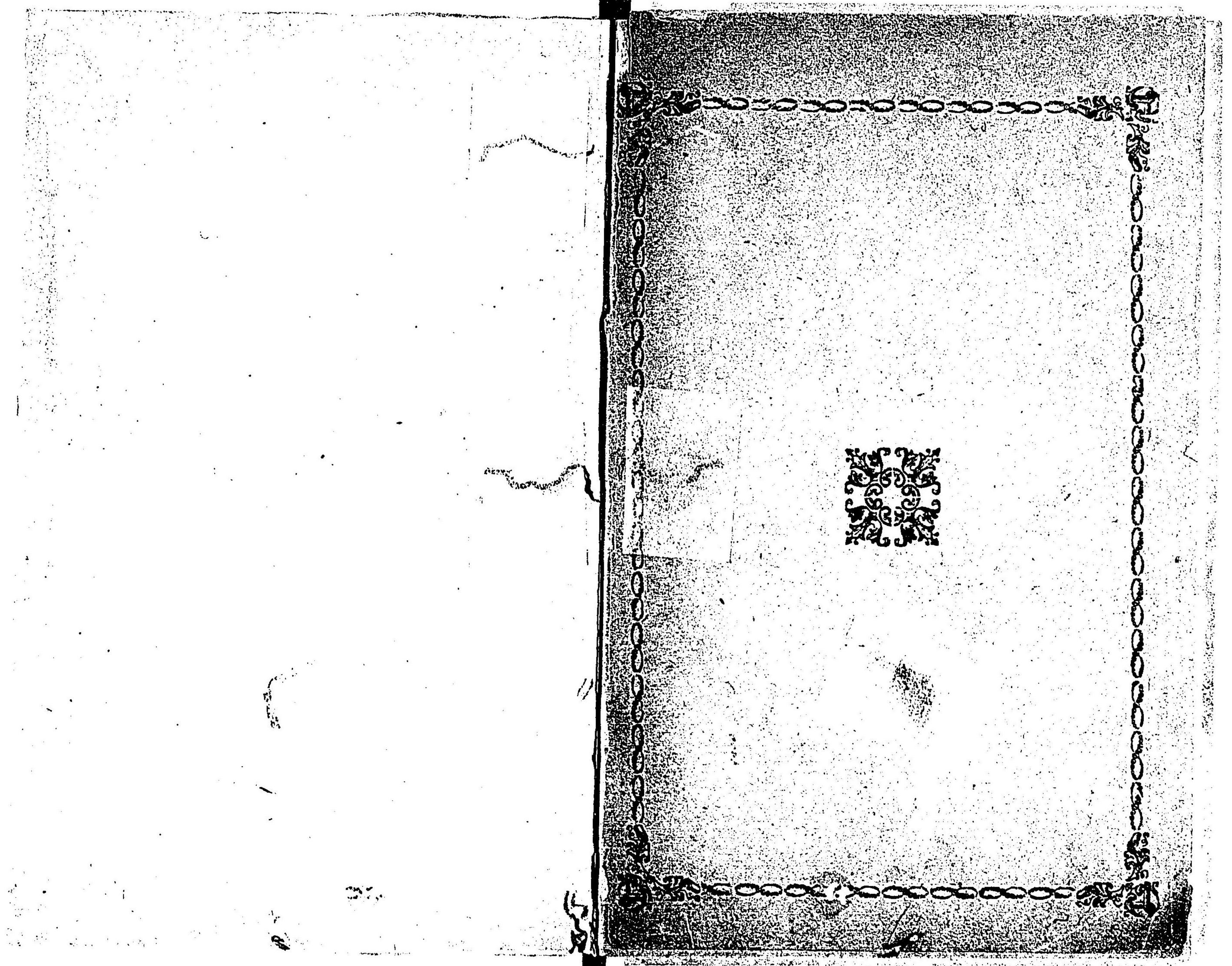
大賣捌所 同支店

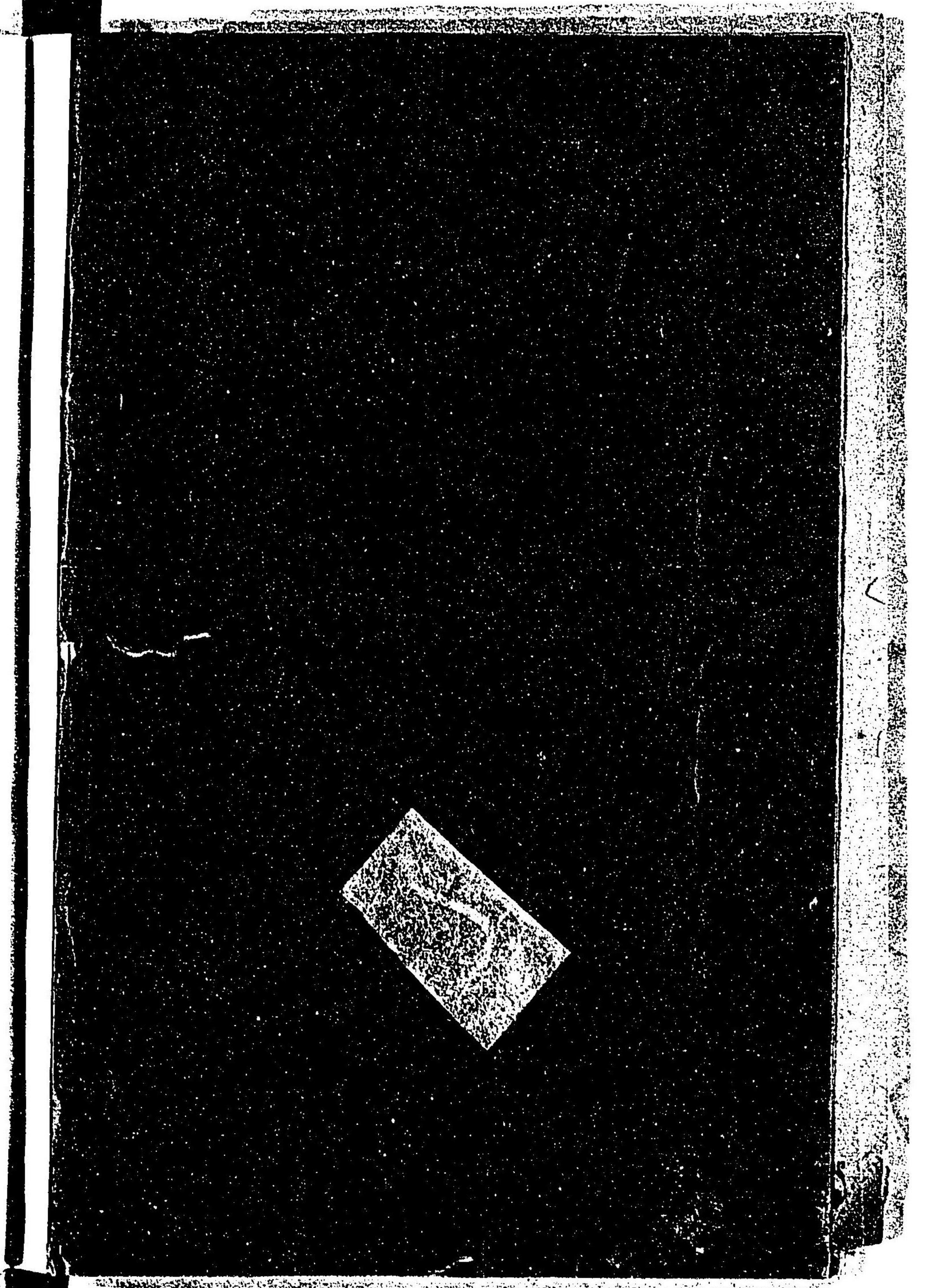
大坂唐物町三丁目

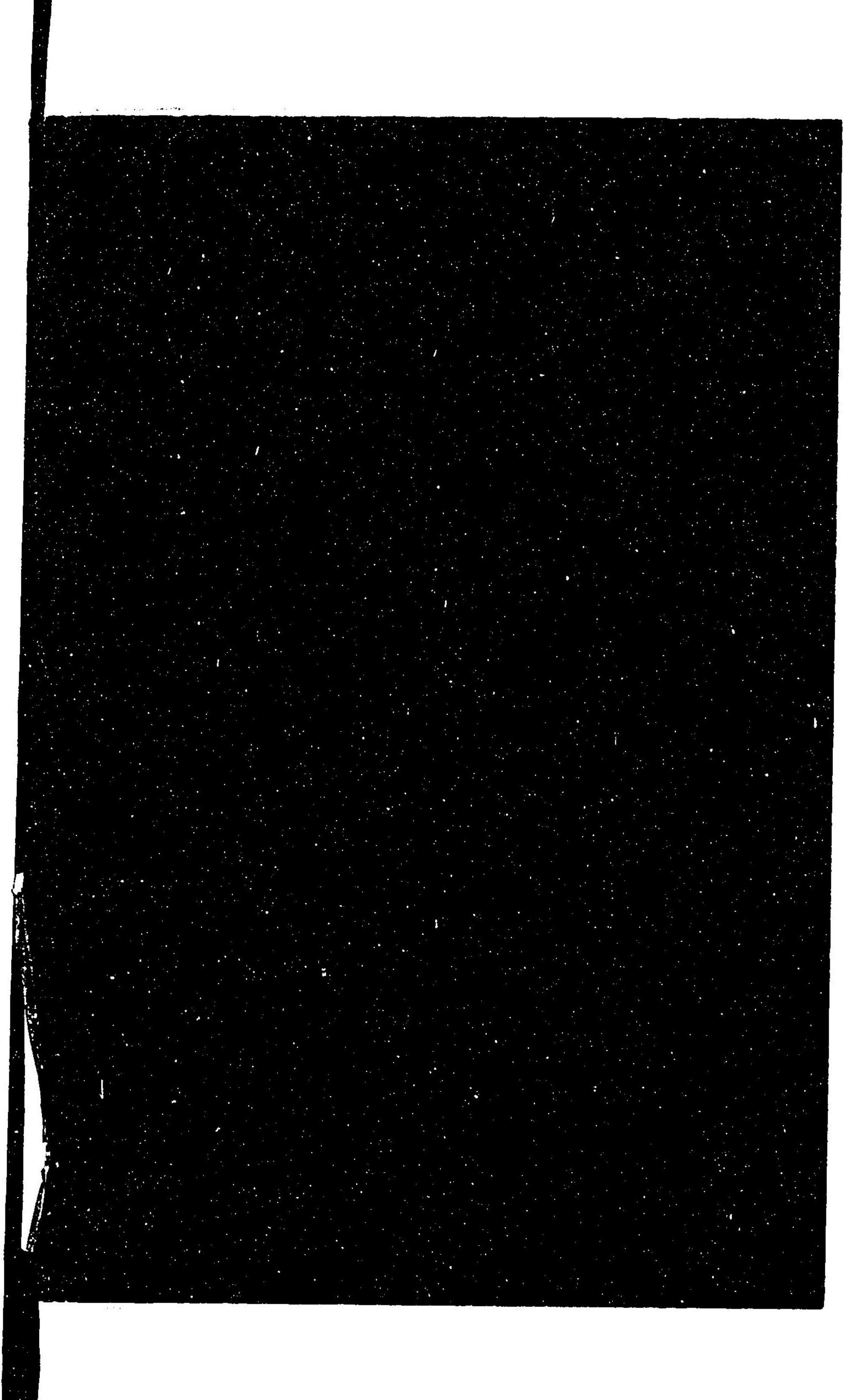
同 東京三島町 山中市兵衛



此書係由... 出版... 內容... 凡欲購買者... 請向... 洽購... 每冊... 元... 售價... 凡欲購買者... 請向... 洽購... 每冊... 元... 售價... 凡欲購買者... 請向... 洽購... 每冊... 元... 售價...







特46

194

東京穴探

初. 2. 3篇

国立国会図書館

027366-000-1

特46-194

東京穴探 初-3編

松村 操/著

M14

ADJ-0122

